

元総社蒼海遺跡群(99)

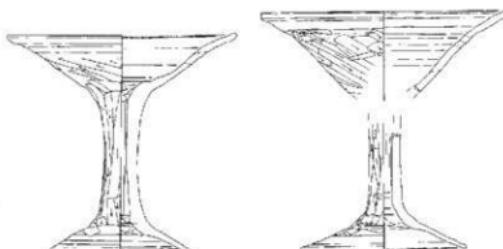
前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2016.3

前橋市教育委員会

元総社蒼海遺跡群(99)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



1号溝跡出土の高环

2016.3

前橋市教育委員会

図絵 1



1 元総社蒼海遺跡群（99）および推定上野国府 33 トレンチ（拡張前）全景（南から）

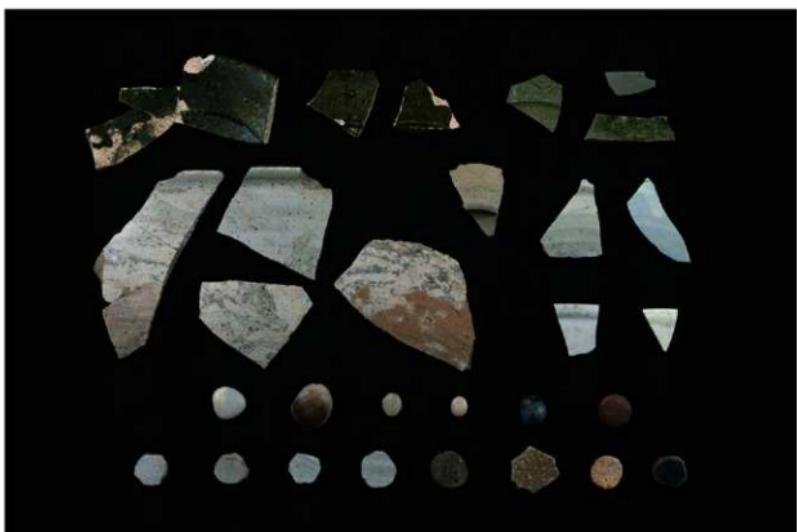


2 33号住居跡と掘込地業の土層堆積状態（調査区東壁・北東から）

口絵 2



3 高环（中央：伝元総社小学校、右・左：元総社舊海遺跡群（99））



4 元総社舊海遺跡群（99）出土緑釉陶器、灰釉陶器、白磁、碁石、円盤形の土器転用品など

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、上毛三山の赤城山を背にして利根川と広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、はるか昔から人々が生活を営んできました。そんな先人の息吹を感じられる生活のあとが、市内のいたる所に遺跡や史跡として多く存在しています。

古代において前橋台地には、広大な穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめたくさんの首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王庵寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野國の中核をなす施設が次々に建てられました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した「関東の華」と謳われた名城、脛橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群（99）は、上野国府の推定地内に位置しています。発掘調査の結果、上野国府が存在した時期に建てられたと考えられる、規模の大きな建物跡が確認されました。この建物が上野国府に深く関係するものなのかどうかは、今後の検討に委ねるところもありますが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。今回の調査成果は一本の糸のようにか細い成果であったとしても、着実に織り上げて行けば、国府の解明へと繋がるものと考えております。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮や、地元の皆様のご協力や声援の結果といえます。また、極暑、極寒の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成28年3月

前橋市教育委員会

教育長 佐藤博之

例　　言

1. 本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群（99）発掘調査報告書である。
2. 調査主体は、前橋市教育委員会である。
3. 発掘調査の要項は次のとおりである。

調査場所	群馬県前橋市元総社町2107番1号
発掘調査期間	平成26年9月22日～平成26年12月24日
整理・報告書作成期間	平成27年1月5日～平成28年3月20日
発掘・整理担当者	福田 貴之・並木 史一（埋蔵文化財係）
4. 本書の原稿執筆・編集は福田・並木・阿久澤智和（埋蔵文化財係）が行った。
5. 発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

片山武一、神山早苗、関根その子、高木勝美、高橋民雄、多田ひさ子、中澤光江、中林美智子、奈良精一、平林しのぶ、茂木昭弘、山川明男
6. 発掘調査にあたり出土した炭化材の樹種同定および土器付着部の化学分析に関しては、パリノ・サーヴェイ株式会社の多大なる技術的支援をいただいた。
7. 調査および報告書作成にあたっては下記の諸機関・諸氏の御教示・御指導をいただいた。

群馬県教育委員会文化財保護課、（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
石田真、石守晃、出浦崇、井上巖、井上唯雄、梅澤重昭、大橋泰夫、川道亨、神谷明、桜岡正信、須田勉、大工原農、高島英之、滝沢匡、田口一郎、田中広明、千葉博俊、角田真也、能登健、橋本淳、林部均、深澤敦仁、前沢和之、松島榮治、松田猛、右島和夫、水谷貴之、横澤真一
8. 発掘調査で出土した遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1. 採図中に使用した北は、座標北である。
2. 採図に国土交通省国土地理院発行の1:200,000地形図（宇都宮、長野）、1:25,000地形図（前橋）、1:6,000前橋市現形図を使用した。
3. 遺跡の略称は、26A195である。
4. 遗構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

H…古墳時代～平安時代の竪穴住居跡　I…井戸跡　O…落ち込み　B…建物跡（掘込地業）　W…溝跡
D…土坑　P…ピット・貯蔵穴
5. 遺構・遺物の実測図の縮尺は、原則的に次のとおりである。その他、各図スケールを参照されたい。

遺構　全体図…1/200、住居跡・竪穴状遺構・溝跡・土坑・ピット…1/60、竈・炉断面図…1/30
遺物　土器…1/3、1/4、石器・石製品・土製品…2/3、1/3、鉄器・鉄製品…1/2、瓦…1/6
6. 計測値については、（ ）は現存値、〔 〕は復元値を表す。
7. セクション注記と遺物觀察表の色調について新版標準土色帳（小山・竹原1967）を基準とした。
8. 遺構平面図の-----は推定線を表す。
9. スクリーントーンの使用は、次のとおりである。

遺構平面図	焼土…■■■■■	粘土…■■■■■	
遺構断面図	構築面…■■■■■	版築…■■■■■	
遺物実測図	須恵器断面…■■■■■	灰釉陶器断面…■■■■■	灰釉陶器表面…■■■■■
	縹軸陶器断面…■■■■■	黒色処理…■■■■■	煤・炭化物付着…■■■■■
10. 主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

As-B（浅間B軽石：供給火山・浅間山、1108年）
Hr-FP（榛名二ッ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、6世紀中葉）
Hr-FA（榛名二ッ岳渋川テフラ：供給火山・榛名山、6世紀初頭）
As-C（浅間C軽石：供給火山・浅間山、4世紀前半～中葉）

目 次

はじめに.....	1
I 調査に至る経緯.....	1
II 遺跡の位置と環境.....	1
1 遺跡の立地.....	1
2 歴史的環境.....	1
III 調査方針と経過.....	7
1 調査方針.....	7
2 調査経過.....	7
IV 基本層序.....	7
V 遺構と遺物.....	8
VI まとめ.....	43

図 版

口絵1 元総社蒼海遺跡群（99）および推定上野国府33トレンチ（城郭前）全景（南から）	6 ピットの分布（中世面）.....	20
2 33号住居跡と掘込地業の土層堆積状態（調査区東壁・北東から）	7 各遺構（調査区北部）上層.....	21
3 高环（中央：伝元総社小学校、右・左：元総社蒼海遺跡群（99））	8 各遺構土層堆積図（調査区北部）.....	22
4 元総社蒼海遺跡群（99）出土縁軸陶器、灰釉陶器、白磁石、円盤形の土器転用品など	9 各遺構（調査区北部）下層.....	23
PL.1 宮錚神社と蒼海遺跡群（99）調査区、蒼海遺跡群（99）調査区全景、蒼海遺跡群（99）調査区と国府34トレンチ、調査区北張部（道路部分）調査状況、中世面での遺構確認状態	10 各遺構図（調査区中央部）.....	24
PL.2 1号敷石遺構全景、4号住居跡覆土堆積状態、10号・11号・12号・13号・14号・16号住居跡全景、灰釉陶器出土状態、11号住居跡貯藏穴遺物出土状態	11 各遺構図（調査区中央～南部）.....	25
PL.3 14号土坑遺物出土状態、1号溝跡全景・遺物出土状態、掘込地業検出状態	12 各遺構土層堆積図（調査区中央～南部）①.....	26
PL.4 掘込地業検出状態、緑地業と布地業検出状態、掘込地業と1号溝跡・布地業の土層堆積状態	13 各遺構土層堆積図（調査区中央～南部）②.....	27
PL.5 緑地業の土層堆積状態、5号・23号・33号・35号住居跡全景	14 挖込地業分布図.....	28
PL.6 元総社蒼海遺跡群（99）出土遺物①	15 挖込地業に係る土層堆積図.....	29
PL.7 元総社蒼海遺跡群（99）出土遺物②	16 挖込地業下位の住居跡.....	30
PL.8 元総社蒼海遺跡群（99）出土遺物③	17 溝跡、土坑、石散置構など.....	31
PL.9 元総社蒼海遺跡群（99）出土遺物④	18 元総社蒼海遺跡群（99）出土遺物（H-1～H-7）.....	32
PL.10 元総社蒼海遺跡群（99）出土遺物⑤	19 元総社蒼海遺跡群（99）出土遺物（H-7～H-12）.....	33
	20 元総社蒼海遺跡群（99）出土遺物（H-14～H-26）.....	34
	21 元総社蒼海遺跡群（99）出土遺物（H-28, 29）.....	35
	22 元総社蒼海遺跡群（99）出土遺物 (H-29, 32, 35, W-1).....	36
	23 元総社蒼海遺跡群（99）出土遺物（W-1～W-3）.....	37
	24 元総社蒼海遺跡群（99）土坑出土遺物 (102～103, 105, 107～117).....	38
	25 元総社蒼海遺跡群（99） 土坑、グリッド出土遺物.....	39
	26 元総社蒼海遺跡群（99） グリッド、調査区出土遺物.....	40
	27 元総社蒼海遺跡群（99） 縁軸、白磁、灰釉、土製品、石製品.....	41
	28 元総社蒼海遺跡群（99） 鉄製品、土製品、石製品.....	42

挿 図

Fig.1 元総社蒼海遺跡群位置図.....	3
2 元総社蒼海遺跡群（99）調査区位置図.....	4
3 元総社蒼海遺跡群（99）グリッド図.....	5
4 周辺遺跡.....	6
5 基本層序.....	7

表

Tab.1 元総社蒼海遺跡群（99）遺構計測表.....	10
2 元総社蒼海遺跡群（99）出土遺物觀察表.....	13

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、本年度で16年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年にわたって行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成26年5月2日付けで、前橋市長 山 本 龍より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会では実施について協議を行い、これを受諾し、平成26年5月7日付けで、調査依頼者である前橋市長 山 本 龍に対し前橋市教育委員会による発掘調査を実施する旨の回答を行った。これを受け平成26年度の元総社蒼海遺跡群の発掘調査は5月23日から開始するに至った。なお、元総社蒼海遺跡群(99)の発掘調査は、平成26年度調査の後半である平成26年9月22日から開始した。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群(99)」(遺跡コード: 26A195)の「元総社蒼海遺跡群」は、区画整理事業名を採用し、数字の「(99)」は過年度に発掘調査を実施した遺跡と区別するために付したものである。

II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地の利根川左岸、東部の広瀬川低地帯という4つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山噴火によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層(水成)から成り立っている。台地の東部は、広瀬川低地帯と直線的な崖で画されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高3m~5mを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畑を主とした畠地として利用されてきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3kmの地点、前橋市総社町総社・元総社町地内に所在している。南東へ約1kmの所に上野国總社神社があり、すぐ西には関越自動車道が南北に走っている。さらに、遺跡地の南側には国道17号線、県道足門・前橋線、主要地方道前橋・安中・富岡線が東西に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。本遺跡はこれらの幹線道路から奥に入ったところに位置し、周囲には田畠が多い住宅地という静かで落ち着いた環境である。

2 歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる総社古墳群と山王庵寺、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の転座を利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連続と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

縄文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地域が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の稲作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検

出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけである。

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡群の北東に広がる総社古墳群が挙げられる。総社古墳群を代表するものには、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ横穴式両袖型の石室が築造された前方後円墳の総社二子山古墳、両袖型横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、仏教文化の影響を強く受けたと考えられる家形石棺をもつ方墳の宝塔山古墳。県内古墳最終末期に築造された蛇穴山古墳があり、この地域と中央との関係を考えるうえで重要な意味をもつ古墳群といえる。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる山王庵寺跡（放光寺）がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鶴尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。なお、山王庵寺跡は平成18年度から5カ年計画で山王庵寺範囲内容確認調査が実施され、平成18年度は講堂と回廊の北東部分、平成19年度は金堂と回廊の西側部分、平成20年度は塔の基壇周辺、平成21年度は回廊中門と考えられる遺構と回廊の南西部分を調査した。平成22年度には、回廊北西部付近で北西にやや傾く版築基壇が新たに確認され、昭和の発掘調査時から確認されている同方位に傾く掘立柱建物と一括して、「山王庵寺下層建物群」として捉えられるに至っている。この建物群の性格については車評衡など諸説あるが、いまだその確定には至っていない。

奈良時代になると、上野国分僧寺・尼寺の建立など、本地域は古代の政治的・経済的・文化的中心地としての様相を呈していく。国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代から部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、礎垣、礎等が確認されている。さらに、国分尼寺の調査では、昭和44・45年に推定中輪線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。さらに平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団で南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と西南隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。なお上野国分僧寺と国分尼寺の中間地域では、関越自動車道建設に伴い発掘調査が行われ、大規模な集落跡や掘立柱建物群が検出されている。

また、上野国府については、その位置が現段階では不明であるが、元総社小校庭遺跡や昌楽寺周辺で実施された確認調査を皮切りに、元総社蒼海遺跡群（9）・（95）で掘立柱建物跡が確認されているほか、元総社寺田遺跡から「國厨」「曹司」「國」「邑厨」等と書かれた墨書き器や人形が出土しているほか、元総社明神遺跡や元総社蒼海遺跡群で当時の役人が用いたと考えられる円面硯、巡方（腰帶具）、縁袖陶器が出土している。また、国府域の区画溝と推定される古代の大溝が閑泉橋遺跡をはじめとして元総社明神遺跡や元総社蒼海遺跡群で確認されている。これらの過去からの調査成果の積み重ねにより、元総社町付近に上野国府が設置されていた可能性是非常に高いと考えられる。

なお、高崎市内の調査事例や地割による研究により、本遺跡から約1.5km南の地点にN-64°-E方向の東山道（国府ルート）があることが推定されている。

中世に至り、永享元年（1429）、上野国守護代の長尾氏によって上野国府中（旧国府）に築かれたと伝えられる蒼海城は、県内でも最古級の城郭に位置づけられ、城下町も存在していたと推定されている。しかしながら慶長年間に秋元氏により総社の地へ城および城下町が移転している。

このように総社・元総社地区は特に古代から上野国を中心部として政治の中心として重要な地域であった。特に、その中でも上野国府が所在したと推定される元総社町は注目される。元総社町は元総社蒼海土地地区画整理事業の進捗に伴い平成11年から継続的に発掘調査が行われている。また、平成23年度から上野国府等範囲内容確認調査も元総社町内を中心に実施していることから、今後、これら調査の進捗によって上野国府が解明されていくことを期待する。

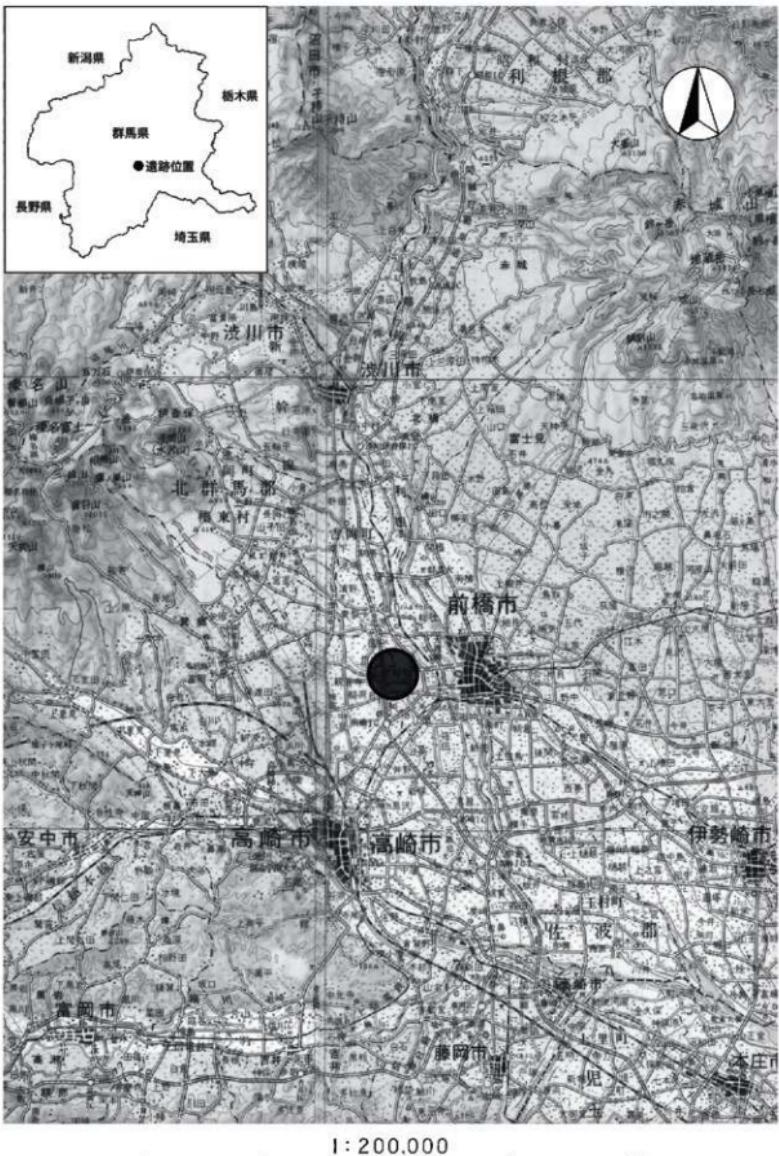


Fig.1 元總社舊海遺跡群位置図

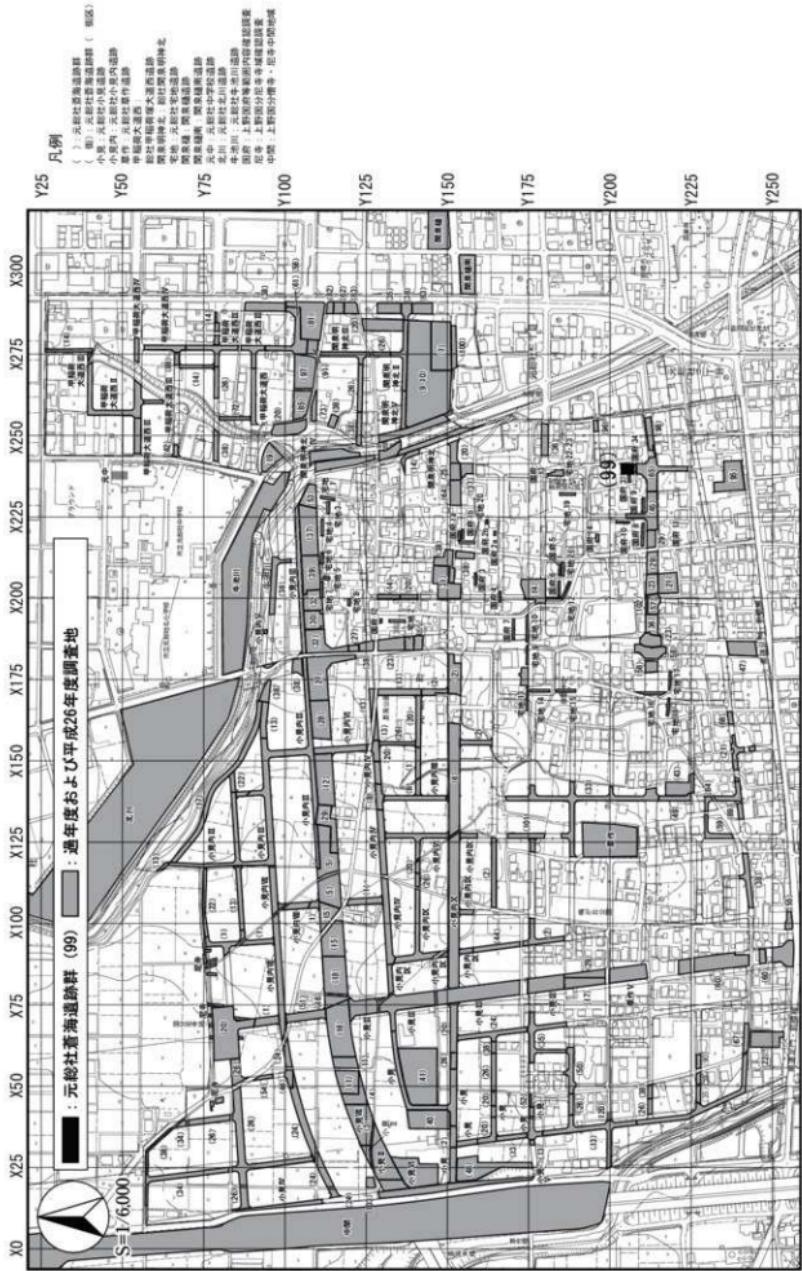


Fig.2 元總社舊海遺跡群 (99) 調査区位置図

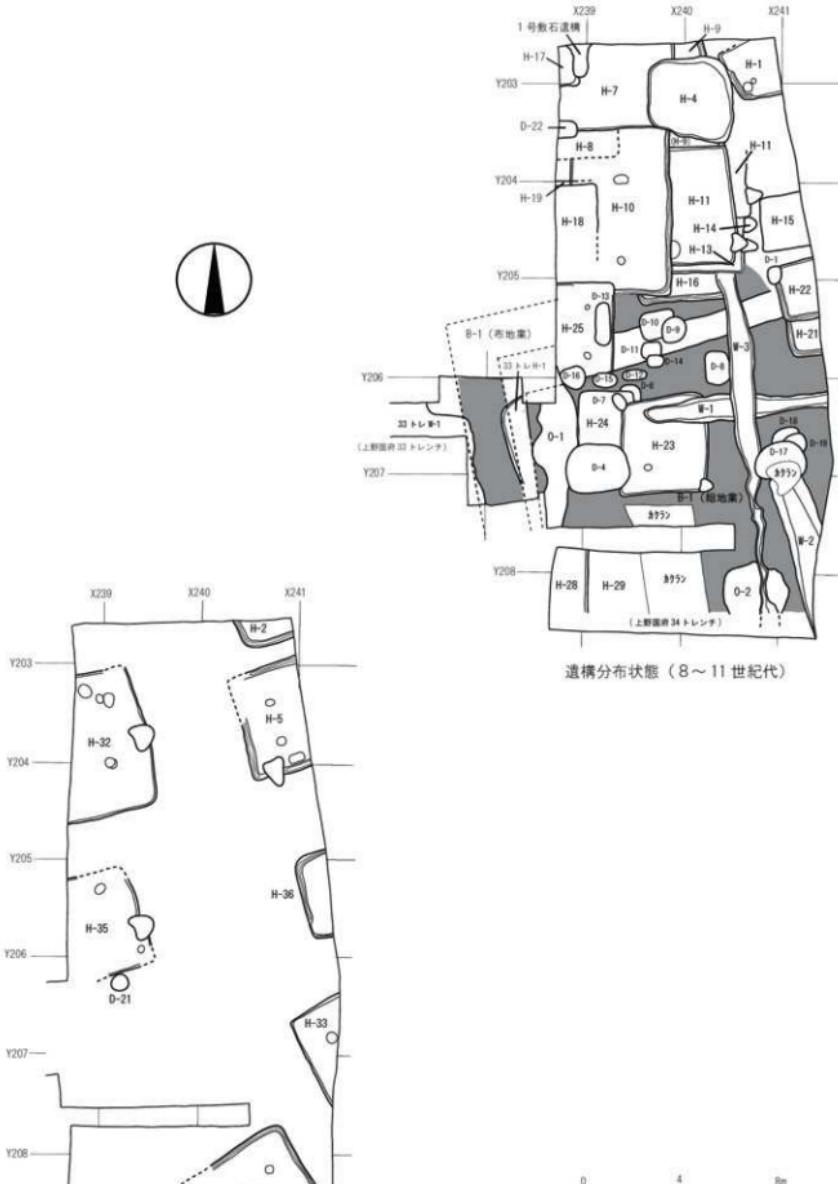
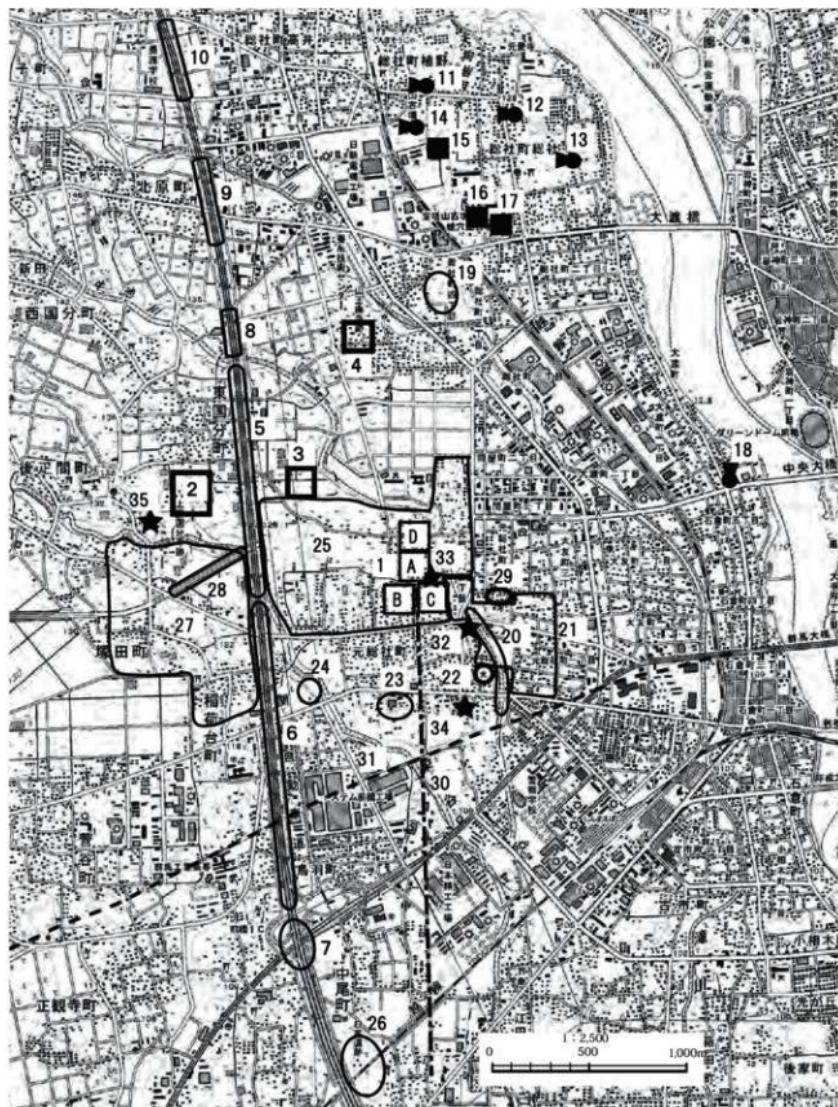


Fig.3 元総社蒼海遺跡群(99) グリッド図



1. 上野国府推定地 2. 上野国分僧寺 3. 上野国分尼寺 4. 山王庵寺 5. 上野国分體寺・尼寺中間 6. 烏羽道路 7. 中尾道路
 8. 国分境道路 9. 北原道路 10. 下東西道路 11. 稲荷山古墳 12. 小字路山古墳 13. 遠見山古墳 14. 総社二子山古墳 15. 愛宕山古墳
 16. 宝塔山古墳 17. 蛇穴山古墳 18. 王山古墳 19. 大屋敷道路 20. 元總社寺田道路 21. 元總社明神道路 22. 元總社小学校庭
 23. 天神II遺跡 24. 汎勅日遺跡 25. 元總社蒼海道路群 26. 日高道路 27. 国府南部道路群 28. 元總社西川・塚田中原道路
 29. 上野国府調査地点(昭和42年) 30. 通称「日高道」 31. 推定東山道駿馬國府ルート 32. 総社神社 33. 宮瀬神社 34. 肢迦尊寺 35. 妙見寺

Fig.4 周辺遺跡

III 調査方針と経過

1 調査方針

発掘調査を依頼された箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い新設される道路用地等で、調査面積は248m²である。遺構番号は、遺跡ごとに個別に付番することとし、99-H-1号住居跡のように、遺構の前に必ず遺跡番号を付すこととした。

グリッド座標については国家座標（日本測地系）X=+44000・Y=-72200を基点（X0・Y0）とする4mピッチのものを使用し、西から東へX238、239、240…、北から南へY202、203、204…と付番し、グリッド呼称は北西杭の名称を使用した。

元総社蒼海遺跡群（99）のX238・Y202の公共座標は以下のとおりである。

日本測地系 X=+43.192.000 Y=-71.248.000

調査方法については、表土掘削・遺構確認・方眼杭等設置・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真の手順で行うこととした。このうちの遺構確認については、基本的にAs-C軽石、Hr-FP軽石、As-B軽石が混入する土層を手がかりとした。

図面作成は、平板・簡易造り方測量を用い、遺構平面図は原則として1/20、住居跡竪は1/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録を記載しながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2 調査経過

現地調査は平成26年9月22日から12月24日まで行った。表土掘削後の遺構確認の段階で濃厚に遺構が分布していたことから発掘作業はグリッドラインでベルトを基調として遺構を面的に確認しながら掘り下げた。10月中旬頃には予想外に掘込地業が検出され、その範囲確認を目的として、本調査区の西側（推定上野国府33トレンチ）と、南側（同34トレンチ）での調査も実施した。また、遺構の学術的な意義から11月20日に第21回上野国府等調査委員会も開催し本調査区の現地視察が行われた。調査では、最終的に掘込地業をもつ建物跡のほかに古墳時代から平安時代にかけての住居跡や溝跡を中心とした遺構が検出され、12月24日に調査は終了した。

IV 基本層序

本調査区の基本層序はFig.5のとおり。調査区の西側では表土の下位は漸移層もしくは地山の総社砂層に達するほど削平されていたが、本調査区のある地点は良好な土層の堆積が確認できた。しかしながら奈良・平安時代の遺構の分布が濃厚なため、IV層（浅間C軽石を含む黒色土層）はほとんど確認できなかった。

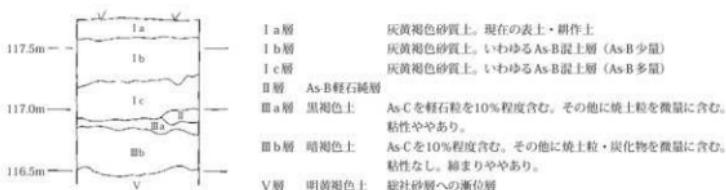


Fig.5 基本層序

V 遺構と遺物

(1) 住居跡

蒼海遺跡群（99）の発掘調査で各時期を通して34軒の住居跡が検出された（Fig.7・9・10・11・17、PL2・5）。各住居の位置・規模・時期等は一覧表のとおり（Tab.1）。なお、各住居跡に属するピット等の規模についても同じく一覧表のとおり。検出された住居跡の時期は6世紀後半と10世紀から11世紀代にかけての2時期に大別できる。

(2) 建物跡

掘込地業をもつ建物跡（Fig.11～16、PL3～5）

位置 X238～241、Y204～208グリッド。ただし、掘込地業は本調査区の西に隣接する上野国府33トレンチと南に隣接する上野国府34トレンチでも検出されている。また、掘込地業は本調査区の東の調査区外まで続いていると推定される。**概要** 布地業と総地業が検出され、総地業の西および北側で布地業が検出された。布地業・総地業の詳細についてはそれぞれ別記する。**時期** 詳しい時期を特定できる根拠に乏しいが、6世紀後半の住居跡の上位に版築が確認されていることから、古墳時代以後に造られたと考えられる。建物が廃絶した時期については掘込地業を掘り込んでいる遺構などから、10世紀代には建物は廃絶していたと考えられる。8世紀から9世紀にかけて存在したと考えるのが妥当か。**その他** 布地業と総地業は検出された位置から重複する可能性を考えられるが重複や新旧関係は明瞭に確認できなかった。下記のとおり、布地業と総地業は主軸に若干の差異をもつことから新旧関係を持つことも考えられる。しかしながらその新旧関係は不明である。

【布地業】

位置 X238～241、Y204・205グリッド。上野国府33トレンチまで含めた範囲はX237～241、Y204・205グリッド。**主軸** N-11°-W。**形状等** 上野国府33トレンチの調査結果も含めた所見としては、確認できている地業の掘り形は、上幅約2mと推定され、検出された状態では掘込地業の幅は一定ではなく、西よりも東に向かって細くなる。掘込地業の掘り形の断面は逆台形で、地山（総社砂層（VI層）もしくは下層の遺構の覆土）まで掘り下げた後に整地を行い平坦に仕上げた状態から版築を行っている部分と、地山を底面が平らになるように掘り込み整地を行わずに版築を行っている部分がある。版築上面は前述のとおり後世の遺構の重複により、かなり変更（搅乱）を受けていると推定され、礎石の据え付けの痕跡や根石等は検出されていない。また、瓦の集中的な出土も認められなかった。

【総地業】

位置 X238～241、Y205～208グリッド。上野国府33・34トレンチまで含めた範囲も同様にX238～241、Y205～208グリッド。**主軸** N-9°-Wと推定される。**形状等** 掘込地業の上位を10世紀から11世紀代の住居跡により破壊されているため検出状態は良好とは言えない状態ではあるが、上野国府33・34トレンチの調査結果も含めて考えると、掘込地業の西端と北端は検出できたが、東端は調査区外に続き、南端は明瞭に確認することができなかった（調査区外へ続くか？）ことから、掘込地業は東西・南北ともに12m以上の規模と推定される。工法としては、地山（総社砂層（VI層）もしくは下層の遺構の覆土）まで掘り下げた後に整地を行い平坦に仕上げた状態から版築を行っている部分と、地山を底面が平らになるように掘り込み整地を行わずに版築を行っている部分がある。版築上面は前述のとおり後世の遺構の重複により、かなり変更（搅乱）を受けていると推定されるが、礎石の据え付けの痕跡や根石等は検出されなかった。また、瓦の集中的な出土も認められなかった。

(3) 溝跡

蒼海遺跡群（99）の発掘調査で3条の溝跡が検出された（Fig.11・13・18、PL.3）。各溝跡の位置・規模・時期等は一覧表のとおり（Tab.1）。1号溝跡は断面U字形で覆土から羽釜や高环などが出土している。2号溝は中世の溝跡である。3号溝は表土掘削段階に遺構確認面直下で検出された。覆土中に砂礫や細かい土器片（酸化焰焼成須恵器や土師質土器）を多く含み、その上位は多量の炭化物が分布していた。形状も不定形で幅や形状が不規則に変化する点などから、意図的に溝として掘られた遺構というよりも、溝状の落ち込みのような状態を呈する。

(4) 敷石遺構

1号敷石遺構（Fig.17、PL.2）

位置 X238、Y202グリッド。主軸方向 ほぼ正方位と考えられる。形状等 5cm前後の円碟が敷きつめられていた。北半は調査区外となるが、確認できた規模は東西1.1m、南北1.38m。全体を調査していないため形状は不明であるが、確認できる平面形状は舌状に近く、北側へ広がる。碟は最深18cmの浅い掘り込みの上部に敷かれていた。出土遺物 なし。時期 検出された層位から古くとも11世紀代と推定される。その他 性格の詳細を判断するための根拠に乏しいため、敷石遺構とした。

(5) 土坑

蒼海遺跡群（99）の発掘調査で21基の土坑が検出された（Fig.7～18）。各土坑の位置・規模等は一覧表のとおり（Tab.1）。4号土坑については、覆土中に人頭大の円碟が多く投げ込まれるように集中して包含されていた。土坑は上記の掘込地業よりも新しいことから、これらの円碟は、本来的には掘込地業をもつ建物の礎石の根石で、建物が廃絶した後に掘込地業が壊されていく過程で取り除かれたのもがまとめて廃棄されたものかもしれない。

(6) ピット

蒼海遺跡群（99）の発掘調査でピットが検出された（Fig.6）。ピットは表土を掘削し、遺構確認を行った面で検出されたものを、確認面およびピットの覆土の状態から中世に帰属するものとしてとらえ、それより下位で検出されたものを遺構との重複状態や覆土から古代と判断した。なお、位置・規模等は一覧表のとおり（Tab.1）。なお、中世に帰属するものとして扱ったピットについては、グリッド毎にピット番号を付した。

(7) 井戸跡

蒼海遺跡群（99）の発掘調査で1基の井戸跡が検出された（Fig.7）。その位置・規模等は一覧表のとおり（Tab.1）。なお、井戸跡は遺構番号の付さなかった井戸が1基存在する（X239、Y202グリッド）。井戸は2基とも中世以後のものと推定される。

(8) 落ち込み

蒼海遺跡群（99）の発掘調査で落ち込みが2か所検出された。（Fig.11）。各落ち込みの位置・規模・等は一覧表のとおり（Tab.1）。1号落ち込みは、西側の上野国府33トレンチにまたがって検出され覆土から1号溝跡から出土した白色の高环の破片が出土していること（前橋市教育委員会 2016）や他の遺構との重複関係から10世紀から11世紀代の遺構と推定される。

Tab.1 元総社苔海遺跡群(99)遺構計測表
住居跡

名稱	位置		主軸	規模			層級	カマド			柱穴	窓戸穴	調査	時期	Fig.	PL.	備考	
	X	Y		長幅	短幅	壁厚		柱数	全長	幅								
H-1	240	202,203	方形	N-01°-E	(2.70)	17.00	5.0	(2.80)	調査区外と推定	1	1	一部剥	10世紀代	7	—			
H-2	240	202	方形	N-05°-E	(1.88)	16.00	26.5	(1.82)	調査区外と推定	なし	なし	有	6世紀後半	9	—			
H-3	240	203	不明	不明	—	—	—	—	築土を露出したが不確	不明	不明	不明	—	—	—			
H-4	239,240	202,203	方形?	N-93°-E	(0.50)	3.48	21.5	(0.28)	未確認(破壊か)	なし	なし	なし	11世紀前半	7	—			
H-5	240,241	202~204	方形	N-73°-E	(4.60)	27.76	33.0	(0.18)	高麗	1.14	0.96	2	1	有	6世紀後半	9	5	
H-6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番	
H-7	239	202,203	方形	N-86°-E	(0.60)	20.00	19.0	(0.24)	不明	なし	なし	なし	11世紀代?	7	2			
H-8	238,239	203	方形	N-92°-E	(2.38)	19.96	4.5	(0.99)	不明	—	—	—	10世紀代?	7	—			
H-9	238	203	不明	不明	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
H-9	239~240	202~203	方形	N-75°-E	(1.75)	17.00	28.5	(2.21)	不明	なし	なし	有	10世紀代	9	—			
H-10	238,239	204,205	方形	N-88°-E	(7.18)	4.15	24.0	(2.53)	不明	2	なし	有	10世紀前半	7~10+11	2			
H-11	239,240	203,204	方形	N-90°-E	4.95	27.88	6.0	0.830	高麗	0.76	0.78	なし	1	なし	10世紀前半	7~10+11	2	
H-12	240	204	方形	N-90°-E	(0.43)	0.10	3.5	(2.15)	高麗	0.65	0.65	なし	なし	10世紀前半	7~10	—		
H-13	240	204	方形	N-90°-E	(0.43)	0.70	10.0	(0.81)	高麗	0.65	0.70	1	なし	なし	10世紀代	7~10+11	—	
H-14	240	204	不明	不明	—	—	—	—	未確認(0.45)	0.55	0.55	不明	不明	不明	7~10	カマドなし		
H-15	240,241	204	方形	N-80°-E	(2.06)	2.10	14.5	16.50	調査区外と推定	なし	なし	なし	10世紀後半	7	—			
H-16	239,240	204,205	方形	N-85°-E	4.00	0.72	35.0	16.70	不明	なし	なし	有	10世紀代	10~11	2			
H-17	238	202,203	方形	N-83°-E	(1.65)	0.10	12.0	0.55	南面窓	0.35	0.55	なし	なし	なし	11世紀代	7	—	
H-18	238,239	204	方形?	不明	—	—	—	—	不明	不明	不明	11世紀代	7	—				
H-19	238	204	方形?	不明	—	—	—	—	不明	不明	不明	11世紀代	7	—				
H-20	240	205	方形?	不明	—	—	—	—	調査区外と推定	不明	不明	不明	11世紀代?	13	—			
H-21	240	205	方形	N-72°-E	(1.80)	0.35	10.0	(1.29)	調査区外と推定	なし	なし	なし	10世紀代?	11	—			
H-22	240,241	204,205	方形	N-78°-E	(1.63)	0.30	19.0	(0.27)	調査区外と推定	なし	なし	なし	10世紀代?	11	—			
H-23	239,240	206,207	方形	N-86°-E	(0.50)	0.52	27.0	(1.27)	南面窓?	—	—	1	なし	なし	11世紀代	11	—	
H-24	238,239	206	方形	N-93°-E	(0.35)	0.40	7.0	16.20	不明	なし	なし	なし	11世紀代	11	—			
H-25	238,239	204,205	方形	N-90°-E	(0.28)	0.40	10.0	—	不明	なし	なし	なし	11世紀代	11	—			
H-26	238~239	210	方形	不明	—	—	—	—	不明	不明	不明	不明	不明	11世紀代	11	—		
H-27	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番	
H-28	238,239	207~208	方形?	N-90°-E	(2.50)	0.30	不明	(0.42)	不明	なし	なし	なし	10世紀後半	11	—			
H-29	239	207~208	方形?	N-90°-E	(0.43)	0.70	不明	(0.67)	不明	なし	なし	なし	10世紀後半	11	—			
H-30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	欠番	
H-31	239	207,208	方形	N-82°-E	(2.26)	1.64	14.5	(2.94)	不明(未確認)	なし	なし	なし	10世紀代	11~12	—			
H-32	238,239	203,204	方形	N-24°-E	0.85	0.25	12.0	0.80	東面窓	0.83	1.02	5	なし	なし	6世紀後半	9	5	
H-33	240,241	206,207	方形	N-60°-E	(0.55)	0.45	25.5	16.80	調査区外と推定	1	なし	なし	6世紀代	16	—			
H-34	239~241	207,208	方形?	N-57°-E	5.00	4.40	24.0	(1.98)	調査区外	3	なし	なし	6世紀後半	16	—			
H-35	238,239	203,206	方形	N-71°-E	(4.26)	0.39	33.5	(0.64)	東面窓	0.87	0.95	2	なし	なし	6世紀後半	16	5	
H-36	241	205,206	方形	N-75°-E	3.50	1.40	18.5	(0.80)	調査区外と推定	なし	なし	有	6世紀代	16	—			

各居住ピット

名稱	位置		規格	層級	編号	位置		規格	層級	編号
	X	Y				長幅	短幅			
H-1P ₁	240	202,203	円形	41	38	14.0	14.0	断破口	—	
H-1P ₂	240	202,203	円形	22	20	10.5	—	—	—	
H-5P ₁	240	203	円形	36	27	38.5	—	—	—	
H-5P ₂	240,241	204,205	長方形	65	35	62.5	断破口	—	—	
H-9P ₁	240	203	円形	40	35	44.5	—	—	—	
H-10P ₁	239	204	円形	34	29	44.0	—	—	—	
H-10P ₂	239	203,204	楕円形	59	36	42.0	—	—	—	
H-11P ₁	239	203	円形	75	63	49.0	—	—	—	
H-23P ₁	239	206	円形	35	26	24.5	—	—	—	
H-32P ₁	238,239	203,204	円形	60	47	16.0	—	—	—	
H-32P ₂	239	203,204	円形	40	32	50.0	—	—	—	

各住居跡新旧関係

名称	新旧関係（旧→新）
H-1	H-2 → H-5 → H-1
H-2	H-2 → H-3
H-3	不明
H-4	H-9 → H-7 → H-4
H-5	H-5 → H-4 → H-4
H-6	欠番
H-7	H-9 → H-32 → H-10 → H-8 → H-7 → H-4 → H-8b → H-17
H-8	H-32 → H-10 → H-8 → H-7 → H-4 → H-8b
H-8b	H-32 → H-10 → H-8 → H-7 → H-4 → H-8b
H-9	H-9 → H-32 → H-10 → H-8 → H-7 → H-4
H-10	H-9 → H-32 → H-1 → H-11 → H-10 → H-8 × H-18 × H-19 ? → H-7
H-11	H-14 → H-16 → H-13 → H-12 → H-11 → H-10
H-12	H-9? → H-14 → H-16 → H-13 → H-12 → H-11 → H-10
H-13	H-9? → H-14 → H-16 → H-13 → H-12 → H-11 → H-10
H-14	H-9? → H-14 → H-16 → H-13 → H-12 → H-11 → H-10
H-15	重複なし
H-16	H-19 → B-1 → H-14 → H-16 → H-13 → H-12 → H-11 → H-10 → W-2
H-17	H-7 → H-17 → 1号敷石遺跡
H-18	H-10 → H-18 → H-19 ? → H-25

名称	新旧関係（旧→新）
H-19	H-10 → H-18 → H-19 ? → H-25
H-20	H-36 → B-1 → H-21 → H-22 → H-20
H-21	H-36 → B-1 → H-21 → H-22 → H-20
H-22	H-36 → B-1 → H-21 → H-22 → H-20
H-23	B-1 → H-24 → H-23 → W-1
H-24	B-1 → H-24 → H-23
H-25	H-35 → B-1 → H-10 → H-18 → H-19 ? → H-25
H-26	欠番
H-27	欠番
H-28	H-28 → H-29
H-29	H-31 → H-28 → H-29
H-30	欠番
H-31	H-31 → H-28 → H-29
H-32	H-32 → H-10 → H-8 → H-7 → H-4
H-33	H-33 → B-1 → W-3
H-34	H-34 → B-1 → W-3
H-35	H-35 → B-1 → H-10 → H-25
H-36	H-36 → B-1 → H-21 → H-22 → H-20

溝跡

名稱	位置		走向	断面形状	長さ	上幅		下幅		深さ		時期	Fig.	Pl.	備考
	X	Y				最大	最小	最大	最小	最大	最小				
W-1	230-241	206	N-87°-E	U字	74.7	105.0	52.0	67.0	32.0	27.5	古代	11	2	高野の出土。	
W-2	240	206-208	N-9°-W	V字	95.4	95.0	15.0	70.0	50.0	15.5	中世	11	-		
W-3	204,241	207,208	N-17°-W	浅V字	62.0	81.0	18.00	150	25.00	39.5	8.0	古代	11	-	砂礫と土器の多量に出土。

土坑

名稱	位置		断面		Fig.	Pl.	備考		
	X	Y	長幅	短幅	深度				
D-1	X240,241	Y204,205	楕円形	南北	55	11	-	鑿孔直徑	
D-2	240	203	方形	80	2.5	9	-	鉛錠発見	
D-3	239	203,204	円形	135	120	23.0	10	-	
D-4	Z58,239	206,207	楕円形	640	370	27.0	11	-	鑿孔直徑
D-5	Z58,239	204	椭円形	110	100	21.5	7	-	5m幅1次
D-6	239	208	椭円形	140	95	6	11	-	
D-7	239	206	椭円形	75	50	25.5	11	-	
D-8	240	205	矩方形	138	100	18.5	11	-	
D-9	Z59,240	205	円形	105	100	-	11	-	
D-10	239	205	椭円形	150	100	38.0	11	-	
D-11	239	205	方形	80	38	-	11	-	

名稱	位置		断面	断面		Fig.	Pl.	備考
	X	Y		長幅	短幅			
D-12	Z39	205	椭円形	100	40	1	不明	11
D-13	Z39	205	椭円形	170	65	27	11	-
D-14	Z39	205	円形	70	48	不明	11	2
D-15	Z39	205,206	椭円形	100	65	25.0	11	-
D-16	Z38	205,206	円形	100	95	8.0	11	-
D-17	240,241	206	円形	300	67.0	不明	11	-
D-18	240,241	206	円形	1110	650	21.5	11	-
D-19	241	206	円形	883	650	35.5	11	-
D-20						-	-	手掘
D-21	Z39	206	円形	80	68	20.0	11	-
D-22	Z38	203	椭円形	868	75	25.0	11	-

ピット

中世面のピット

X239・Y202グリッド

名稱	平面形	規格			Fig.	PL.	備考
		長幅	短幅	深さ			
P-1	円形	43.0	40.0	31.0	6	—	

X239・Y203グリッド

名稱	平面形	規格			Fig.	PL.	備考
		長幅	短幅	深さ			
P-1	円形	35.0	31.0	33.5	6	—	
P-2	円形	30.0	30.0	22.0	6	—	
P-3	円形	26.0	25.0	5.0	6	—	
P-4	円形	18.0	18.0	9.5	6	—	

X239・Y205グリッド

名稱	平面形	規格			Fig.	PL.	備考
		長幅	短幅	深さ			
P-1	円形	35.0	26.0	23.5	6	—	
P-2	方形	25.0	23.0	49.5	6	—	
P-3	円形	33.0	25.0	28.0	6	—	
P-4	円形	20.0	18.0	18.0	6	—	
P-5	円形	43.0	32.0	24.0	6	—	

X239・Y206グリッド

名稱	平面形	規格			Fig.	PL.	備考
		長幅	短幅	深さ			
P-1	円形	43.0	35.0	12.0	6	—	
P-2	円形	30.0	28.0	7.0	6	—	
P-3	椭円形	58.0	30.0	42.5	6	—	
P-4	円形	38.0	22.0	11.5	6	—	
P-5	方形	28.0	25.0	8.5	6	—	
P-6	円形	30.0	27.0	40.5	6	—	
P-7	方形	30.0	29.0	18.5	6	—	

X240・Y202グリッド

名稱	平面形	規格			Fig.	PL.	備考
		長幅	短幅	深さ			
P-1	円形	35.0	34.0	13.0	6	—	
P-2	円形	31.0	25.0	10.0	6	—	

X240・Y203グリッド

名稱	平面形	規格			Fig.	PL.	備考
		長幅	短幅	深さ			
P-1	円形	33.0	31.0	5.0	6	—	
P-2	円形	27.0	25.0	21.5	6	—	
P-3	円形	26.0	23.0	6.0	6	—	

X240・Y204グリッド

名稱	平面形	規格			Fig.	PL.	備考
		長幅	短幅	深さ			
P-1	円形	38.0	35.0	12.0	6	—	
P-2	円形	36.0	32.0	6.0	6	—	
P-3	円形	38.0	38.0	4.0	6	—	
P-4	円形	40.0	35.0	34.0	6	—	
P-5	椭円形	40.0	25.0	34.0	6	—	
P-6	円形	28.0	18.0	13.5	6	—	
P-7	円形	35.0	30.0	39.5	6	—	

X241・Y205グリッド

名稱	平面形	規格			Fig.	PL.	備考
		長幅	短幅	深さ			
P-1	円形	35.0	34.0	35.0	6	—	

X241・Y206グリッド

名稱	平面形	規格			Fig.	PL.	備考
		長幅	短幅	深さ			
P-1	方形	35.0	34.0	35.0	6	—	
P-2	円形	47.0	43.0	4.0	6	—	
P-3	椭円形	39.0	27.0	19.5	6	—	
P-4	円形	40.0	40.0	14.0	6	—	

井戸跡

名稱	位置		規格	Fig.	PL.	備考
	X	Y				
I-1	239	262,203	円形	98.3	95	99.5
P-2	円形	31.0	25.0	10.0	6	—

落ち込み

名稱	位置		規格	Fig.	PL.	備考
	X	Y				
O-1	238	266,207	不定形	—	—	11
O-2	240,241	267,208	円形	26.8	22.0	8.0
					11	—

Tab.2 元総社蒼海遺跡群(99)出土遺物観察表

番号	出土遺物 部位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	④胎土 ⑤焼成 ⑥色調 ⑦表面度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
1	H-1 覆土	須恵器 桶	①[18.4] ②[7.2] ③[8.4]	④繊細 ⑤酸化焰 ⑥灰白 ⑦無	外面：輪廓整形、口縁部横ナデ。底部は高台貼付によるナデ調整。 内面：輪廓整形、黒色土器のような着けが施される。		
2	H-1 覆土	須恵器 桶	①— ②[2.1] ③—	④繊細 ⑤酸化焰 ⑥灰白 ⑦無	外面：輪廓整形、底部は高台貼付によるナデ調整。 内面：輪廓整形、底部に煤がる。		
3	H-2 覆土	土器器 环	①[12.0] ②[3.4] ③—	④中粒 ⑤酸化焰 ⑥灰白 ⑦無	外面：輪廓整形、口縁部横ナデ、体部へラ削り。内面：横ナデ。		
4	H-3 床直	須恵器 桶	①[11.0] ②[4.6] ③[5.5]	④繊細 ⑤酸化焰 ⑥灰白 ⑦無	外面：輪廓整形、横ナデ。丁寧な磨きで平滑に仕上げる。底部は内面有段の高台を貼付。内面：輪廓整形、横磨き後に斜位磨きを施す。	2	内外面に黒色処理
5	H-4 床直	須恵器 桶	①[10.8] ②[4.7] ③[6.0]	④繊細 ⑤酸化焰 ⑥灰白 ⑦無	外面：輪廓整形、口縁部横ナデ。底部は若干凹み、高台を貼付。口縁部に油膜状の煤が付く。内面：輪廓整形、丁寧なナデ。	17	覆土か？
6	H-4 覆土 高台桶	須恵器 桶	①[16.6] ②[7.1] ③—	④繊細 ⑤酸化焰 ⑥灰白 ⑦無	外面：輪廓整形、横ナデ。丁寧な磨きで平滑に仕上げる。底部は内面有段の高台を貼付。内面：輪廓整形、横ナデ。		
7	H-4 皿	須恵器 皿	①[14.0] ②[3.1] ③[6.8]	④中粒 ⑤酸化焰 ⑥灰黄 ⑦口縁上	外面：輪廓整形、口縁部横ナデ。底部は高台貼付によるナデ調整。 内面：輪廓整形、横ナデ。	1	
8	H-4 环	須恵器 环	①[11.8] ②[4.1] ③[6.0]	④繊細 ⑤酸化焰 ⑥灰白 ⑦無	外面：輪廓整形、口縁部横ナデ。底部は回転糸切り。 内面：輪廓整形、横ナデ。	2	
9	H-4 环	須恵器 环	①[9.5] ②[2.8] ③[4.8]	④中粒 ⑤酸化焰 ⑥灰白 ⑦無	外面：輪廓整形、口縁部横ナデ。底部は回転糸切り。 内面：輪廓整形、横ナデ。	21	
10	H-4 覆土	須恵器 环	①[10.0] ②[2.7] ③[6.1]	④繊細 ⑤酸化焰 ⑥灰白 ⑦無	外面：輪廓整形、口縁部横ナデ。底部は静止糸切り。		
11	H-4 覆土	須恵器 环	①[10.0] ②[2.3] ③[5.3]	④繊細 ⑤酸化焰 ⑥灰白 ⑦無	外面：輪廓整形、口縁部横ナデ。底部は静止糸切りにより、円形が崩れる。 内面：輪廓整形、横ナデ。		
12	H-4 覆土	須恵器 环	①[9.6] ②[2.1] ③[5.1]	④繊細 ⑤酸化焰 ⑥灰白 ⑦無	外面：輪廓整形、口縁部横ナデ。底部は静止糸切り後に回転糸切り。 内面：輪廓整形、横ナデ。		
13	H-4 覆土	須恵器 环	①[9.5] ②[2.6] ③[6.1]	④繊細 ⑤酸化焰 ⑥灰白 ⑦無	外面：輪廓整形、口縁部横ナデ。底部は回転糸切り。内面：輪廓整形、横ナデ。口縁部から底面にかけて稍色の色斑が付く。		
14	H-5 貯藏穴	土器器 环	①[13.4] ②[3.5] ③—	④繊細 ⑤酸化焰 ⑥灰白 ⑦無	外面：口縁部横ナデ。体部へラ削り。	野1	
15	H-5 床直	土器器 环	①[14.0] ②[3.8] ③—	④繊細 ⑤酸化焰 ⑥灰白 ⑦無	外面：口縁部横ナデ。体部はヘラ削り後にヘラ磨き。 内面：丁寧な磨き。	1	
16	H-5 甕	土器器 甕	①[19.4] ②[15.2] ③—	④中粒 ⑤酸化焰 ⑥灰黄 ⑦底部下位欠	外面：口縁部横ナデ。体部は履位のヘラ削り。	カマド 7.8	
17	H-7 覆土	須恵器 环	①[8.2] ②[1.7] ③[3.8]	④繊細 ⑤酸化焰 ⑥灰黄 ⑦無	外面：輪廓整形、横ナデ。底部は回転糸切り。肥厚する箇所がある。 内面：輪廓整形、ナデ。		
18	H-7 覆土	須恵器 环	①[10.2] ②[2.1] ③[5.2]	④繊細 ⑤酸化焰 ⑥灰黄 ⑦無	外面：輪廓整形、口縁部横ナデ。底部は回転糸切り。 内面：輪廓整形、横ナデ。		
19	H-9 覆土	須恵器 环	①[10.5] ②[3.3] ③[4.8]	④中粒 ⑤酸化焰 ⑥灰白 ⑦無	外面：輪廓整形、口縁部横ナデ。底部は回転糸切り。 内面：輪廓整形、横ナデ。内外面に黒い塊状の物質が僅かに見られる。		
20	H-10 床下 高台桶	須恵器 环	①[15.2] ②[5.6] ③[8.6]	④繊細 ⑤酸化焰 ⑥灰白 ⑦無	外面：輪廓整形、口縁部横ナデ。輪廓直脚が顯著。底部は回転糸切り後、底部抵する高台を貼付。内面：横ナデ。	床下3	
21	H-10 床直	須恵器 环	①[14.6] ②[5.3] ③[7.2]	④繊細 ⑤酸化焰 ⑥灰白 ⑦無	外面：輪廓整形、口縁部横ナデ。体部下位で屈曲する。底部はナデ調整。 内面：輪廓整形、丁寧な磨きが施される。		内面に黒色 處理
22	H-10 床直	須恵器 环	①[13.8] ②[4.0] ③[6.0]	④中粒 ⑤酸化焰 ⑥灰黄 ⑦無	外面：輪廓整形、口縁部横ナデ。底部は回転糸切り。体部と底面に黒い塊状の物質が付着する。	18	
23	H-11 床直	須恵器 环	①[15.4] ②[6.9] ③[8.9]	④中粒 ⑤酸化焰 ⑥灰白 ⑦無	外面：輪廓整形、口縁部横ナデ。底部は端部に抵する高台を貼付。	8	
24	H-11 床直	須恵器 桶	①[15.4] ②[5.3] ③—	④繊細 ⑤酸化焰 ⑥灰白 ⑦無	外面：輪廓整形、横ナデ。底部は端部に抵する高台を貼付。 内面：輪廓整形、横ナデ。	6	
25	H-11 覆土	須恵器 桶	①[11.6] ②[3.4] ③[5.1]	④繊細 ⑤酸化焰 ⑥灰白 ⑦無	外面：輪廓整形、横ナデ。底部は回転糸切り。 内面：輪廓整形、横ナデ。内外面に油膜が付着する。		
26	H-11 床直	須恵器 桶	①[10.3] ②[2.4] ③[6.7]	④繊細 ⑤酸化焰 ⑥灰白 ⑦無	外面：輪廓整形、口縁部横ナデ。底部は静止糸切り。 内面：輪廓整形、横ナデ。	3	
27	H-11 甕	須恵器 甕	①[9.8] ②[3.1] ③[5.2]	④中粒 ⑤酸化焰 ⑥灰白 ⑦無	外面：輪廓整形、口縁部横ナデ。底部回転糸切り。 内面：輪廓整形、横ナデ。		
28	H-11 床直	灰釉 段皿	①[13.2] ②[2.2] ③[6.6]	④繊細 ⑤酸化焰 ⑥灰白 ⑦無	外面：六面整形、横ナデ。底部は回転糸切り後、断面三角形の高台を貼付。 内面：輪廓整形、ナデ。口縁部に浅い凹。見込み部に重ね焼き。	12	
29	H-11 貯藏穴	須恵器 甕	①[10.1] ②[2.8] ③[5.0]	④繊細 ⑤酸化焰 ⑥灰白 ⑦無	外面：輪廓整形、口縁部横ナデ。底部回転糸切り。 内面：輪廓整形、横ナデ。	貯藏穴	
30	H-11 貯藏穴	須恵器 高台桶	①— ②[8.3] ③[9.0]	④中粒 ⑤酸化焰 ⑥灰白 ⑦無	外面：輪廓整形、口縁部横ナデ。底部は端部に抵する。	野1	
31	H-11 貯藏穴	須恵器 桶	①[12.6] ②[6.0] ③[9.0]	④繊細 ⑤酸化焰 ⑥灰白 ⑦無	外面：輪廓整形、口縁部横ナデ。底部は端部に抵する。	野2	
32	H-12 床直	須恵器 桶	①[9.2] ②[2.6] ③[4.1]	④繊細 ⑤酸化焰 ⑥灰白 ⑦無	外面：輪廓整形、横ナデ。	6	
33	H-12 床直	須恵器 桶	①[14.4] ②[4.8] ③—	④中粒 ⑤酸化焰 ⑥灰白 ⑦無	外面：輪廓整形、口縁部横ナデ。底部は高台を貼付しナデ調整。 内面：輪廓整形、ナデ。	11,13	

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②底径 ③高さ ④深さ	⑤胎土 ⑥焼成 ⑦調 ⑧過成度	器種の特徴・形態・調整技術	登録番号	備考
34	H-12 覆土	須恵器 碗	①— ②(3.1) ③— ④—	①細粒 ②焼成化 ③にふい枠 ④2/5	外面：縦縫型形。ナデ。底部は高台を貼付しナデ調整。 内面：縦縫型形、丁寧な磨き。		内面に黒色 処理
35	H-14 床直	須恵器 皿	①11.4 ②2.6 ③— ④—	①細粒 ②焼成化 ③にふい枠 ④はぼ完形	外面：縦縫型形、L脚部横ナデ。底部は厚みのない高台を貼付しナデ調整。 内面：縦縫型形、横ナデ。	1	
36	H-15 床直	須恵器 环	①10.0 ②3.3 ③— ④—	①細粒 ②焼成化 ③にふい枠 ④1/4	外面：縦縫型形、L脚部横ナデ。底部は回転糸切り。 内面：縦縫型形、横ナデ。	3	
37	H-15 床直	須恵器 环	①10.0 ②3.6 ③— ④—	①細粒 ②焼成化 ③にふい枠 ④はぼ完形	外面：縦縫型形、横ナデ。底部は回転糸切り。 内面：縦縫型形、横ナデ。	1	
38	H-15 床直	須恵器 环	①10.0 ②3.6 ③— ④—	①細粒 ②焼成化 ③枠 ④はぼ完形	外面：縦縫型形、L脚部横ナデ。底部は回転糸切り。 内面：縦縫型形、横ナデ。	2	
39	H-15 覆土	須恵器 碗	①— ②(2.7) ③— ④—	①細粒 ②焼成化 ③にふい枠 ④全体のみ	外面：縦縫型形、横ナデ。底部は回転糸切り。高台貼付。 内面：縦縫型形、ナデ。		
40	H-15 床直	須恵器 环	①15.6 ②7.4 ③— ④—	①細粒 ②焼成化 ③にふい枠 ④—	外面：縦縫型形、L脚部横ナデ後に丁寧な磨きで平滑に仕上げる。底部は回 転糸切り後、高台陶付。保付着。内面：縦縫型形、横ナデ後に丁寧な磨き。	5	
41	H-16 床直	須恵器 环	①11.0 ②4.7 ③— ④—	①細粒 ②焼成化 ③にふい枠 ④1/2	外面：縦縫型形、口縁部横ナデ。体部に縦縫痕。底部は高台貼付し、 ナデ調整。内面：縦縫型形、横ナデ。	1	
42	H-17 覆土	須恵器 环	①8.5 ②2.5 ③— ④—	①細粒 ②焼成化 ③黄枠 ④はぼ完形	外面：縦縫型形、横ナデ。底部は回転糸切り。 内面：縦縫型形、横ナデ。		
43	H-18 床直	須恵器 环	①8.6 ②2.3 ③— ④—	①細粒 ②焼成化 ③黄枠 ④4/5	外面：縦縫型形、横ナデ。底部は回転糸切り。 内面：縦縫型形、横ナデ。	1	
44	H-23 床直	須恵器 环	①10.1 ②3.2 ③— ④—	①細粒 ②焼成化 ③枠 ④2/3	外面：縦縫型形、L脚部横ナデ。底部は回転糸切り。 内面：縦縫型形、横ナデ。L脚部に保付着。	3	
45	H-23 床直	須恵器 环	①[14.6] ②3.5 ③— ④—	①中粒 ②焼成化 ③にふい黄枠 ④1/3	外面：縦縫型形、口縁部横ナデ体部は縦縫痕が顯著。底部は回転糸切り。 内面：縦縫型形、横ナデ。	1	
46	H-23 床直	須恵器 环	①11.2 ②5.2 ③— ④—	①細粒 ②焼成化 ③灰枠 ④3/4	外面：縦縫型形、L脚部横ナデ。底部は高台を貼付し調整する。	5	
47	H-23 床直 小鉢	土師器 环	①— ②2.8 ③— ④—	①細粒 ②焼成化 ③黒 ④完形	内面ともに丁寧な磨きを施す。 内面底部に茶け付着する。	4	内外面に黒 色処理
48	H-24 床直	須恵器 环	①[10.2] ②1.8 ③— ④—	①細粒 ②焼成化 ③にふい黄枠 ④3/5	外面：縦縫型形、L脚部横ナデ。底部は回転糸切り。 内面：縦縫型形、横ナデ。	1	
49	H-24 床直	須恵器 环	①9.3 ②2.3 ③— ④—	①細粒 ②焼成化 ③浅鉢枠 ④はぼ完形	外面：縦縫型形、L脚部横ナデ。底部は回転糸切り。 内面：縦縫型形、横ナデ。	2,3	
50	H-24 床直	須恵器 环	①[10.1] ②2.2 ③— ④—	①細粒 ②焼成化 ③枠 ④1/2	外面：縦縫型形、L脚部横ナデ。底部は回転糸切り。 内面：縦縫型形、横ナデ。	6	
51	H-24 床直	須恵器 环	①11.8 ②3.8 ③— ④—	①細粒 ②焼成化 ③枠 ④完形	外面：縦縫型形、L脚部横ナデ。底部は回転糸切り。 内面：縦縫型形、横ナデ。内外面ともに油膜が付着する。	4	
52	H-24 床直	須恵器 环	①8.1 ②3.0 ③— ④—	①細粒 ②焼成化 ③にふい黄枠 ④3/5	外面：縦縫型形、横ナデ。底部は回転糸切り後、平坦な高台を貼付。 内面：縦縫型形、丁寧な磨きを施す。	7	内外面に黒 色処理
53	H-24 覆土	須恵器 碗	①— ②(1.2) ③— ④—	①細粒 ②焼成化 ③にふい黄枠 ④破片	外面：縦縫型形、底辺高台を貼付しナデ調整。 内面：縦縫型形、丁寧な磨きを施す。赤色物質が広範囲に付着する。		内外面に黒 色処理
54	H-24 覆土	須恵器 碗	①— ②(2.1) ③— ④—	①細粒 ②焼成化 ③にふい黄枠 ④底部	外面：縦縫型形、丁寧な磨きを施す。 内面：縦縫型形、丁寧な磨きを施す。		内外面に黒 色処理
55	H-26 覆土	須恵器 环	①[15.1] ②4.6 ③— ④—	①細粒 ②焼成化 ③にふい枠 ④2/3	外面：縦縫型形、体部には縦縫痕。底部は回転糸切り。内面：縦縫型形、 横ナデ。内外面の対になる箇所に底に粘土を織ぎ足す。内外面に保付。		
56	H-26 床直	須恵器 环	①[14.0] ②4.0 ③— ④—	①細粒 ②焼成化 ③にふい黄枠 ④1/3	外面：縦縫型形、横ナデ。底部は回転糸切り。 内面：縦縫型形、横ナデ。	2	
57	H-26 床直	須恵器 环	①9.2 ②1.9 ③— ④—	①細粒 ②焼成化 ③にふい枠 ④完形	外面：縦縫型形、横ナデ。底部は回転糸切り。 内面：縦縫型形、横ナデ。	1	
58	H-28 床直	須恵器 环	①9.4 ②2.4 ③— ④—	①細粒 ②焼成化 ③黄枠 ④はぼ完形	外面：縦縫型形、L脚部横ナデ。底部は回転糸切り。 内面：縦縫型形、横ナデ。底辺は若干凹む。	4	
59	H-28 覆土	須恵器 环	①9.7 ②2.0 ③— ④—	①中粒 ②焼成化 ③にふい枠 ④2/3	外面：縦縫型形、L脚部横ナデ。底部は回転糸切り。 内面：縦縫型形、横ナデ。		
60	H-28 覆土	須恵器 环	①8.6 ②2.2 ③— ④—	①中粒 ②焼成化 ③黄枠 ④1/2	外面：縦縫型形、L脚部横ナデ。底部は回転糸切り。 内面：縦縫型形、横ナデ。		
61	H-28 覆土	須恵器 环	①[10.8] ②3.5 ③— ④—	①細粒 ②焼成化 ③枠 ④3/5	外面：縦縫型形、L脚部横ナデ。体部に縦縫痕が顯著。底部は回転糸切り。 内面：縦縫型形、横ナデ。		
62	H-28 覆土	須恵器 碗	①9.7 ②3.0 ③— ④—	①中粒 ②焼成化 ③にふい枠 ④3/5	外面：縦縫型形、L脚部横ナデ。底部は静止糸切り。 内面：縦縫型形、横ナデ。		
63	H-28 床直	須恵器 环	①8.8 ②2.0 ③— ④—	①細粒 ②焼成化 ③枠 ④4/5	外面：縦縫型形、L脚部横ナデ。底部は回転糸切り。 内面：縦縫型形、横ナデ。	5	
64	H-28 床直	須恵器 环	①9.4 ②2.2 ③— ④—	①細粒 ②焼成化 ③黄枠 ④完形	外面：縦縫型形、丁寧な横ナデ。底部は回転糸切り。 内面：縦縫型形、丁寧な横ナデ。	7	
65	H-28 覆土	須恵器 皿	①9.6 ②2.4 ③— ④—	①細粒 ②焼成化 ③にふい枠 ④1/2	外面：縦縫型形、横ナデ。底部は高台貼付によるナデ調整。 内面：縦縫型形、横ナデ。		
66	H-28 床直	須恵器 环	①[14.3] ②3.9 ③— ④—	①細粒 ②覆元端 ③にふい黄枠 ④1/2	外面：縦縫型形、横ナデ。底部は回転糸切り。 内面：縦縫型形、体部に工具痕。	3	
67	H-28 覆土	須恵器 碗	①— ②(2.1) ③— ④—	①中粒 ②焼成化 ③浅黄枠 ④底部のみ	外面：縦縫型形、横ナデ。底部は高台貼付によるナデ調整。高台欠損する。 内面：縦縫型形、横ナデ。		

番号	出土遺構 部位	器種名	①口径 ②器高 ③直徑	④胎土 ⑤焼成 ⑥色調 ⑦保存度	⑧胎土 ⑨焼成 ⑩形状	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
68	H-29 覆土 环	須恵器	⑨.4 ⑤.2	⑥繊粒 ⑦酸化焰 ⑧浅黄褐 ⑨完形	⑩粘土 ⑪ふい糞粉 ⑫4/5	外面：輪縁整形、横ナデ。底部は回転削切り。 内面：輪縁整形、横ナデ。		
69	H-29 須恵器 覆土 环	須恵器	⑨.2 ⑤.2	⑥繊粒 ⑦酸化焰 ⑧灰白 ⑨完形	⑩粘土 ⑪ふい糞粉 ⑫4/5	外面：輪縁整形、横ナデ。底部は回転削切り。 内面：輪縁整形、横ナデ。		
70	H-29 須恵器 床直 环	須恵器	⑨.4 ⑤.7	⑥繊粒 ⑦酸化焰 ⑧にふい糞粉 ⑨完形	⑩粘土 ⑪ふい糞粉 ⑫4/5	外面：輪縁整形、横ナデ。底部は回転削切り。 内面：輪縁整形、横ナデ。	3	
71	H-29 須恵器 覆土 环	須恵器	⑨.2 ⑤.4	⑥中粒 ⑦酸化焰 ⑧相 ⑨完形	⑩中粒 ⑪ふい糞粉 ⑫4/5	外面：輪縁整形、横ナデ。底部は回転削切り。 内面：輪縁整形、横ナデ。		
72	H-29 須恵器 覆土 环	須恵器	⑨.3 ⑤.1	⑥中粒 ⑦酸化焰 ⑧灰 ⑨1/2	⑩中粒 ⑪ふい糞粉 ⑫4/5	外面：輪縁整形、横ナデ。底部は回転削切り。 内面：輪縁整形、横ナデ。		
73	H-29 須恵器 覆土 环	須恵器	⑨.2 ⑤.2	⑥繊粒 ⑦酸化焰 ⑧にふい糞粉 ⑨完形	⑩粘土 ⑪ふい糞粉 ⑫4/5	外面：輪縁整形、横ナデ。底部は回転削切り。 内面：輪縁整形、横ナデ。黒い座盤状の物質が付着。		
74	H-29 須恵器 床直 环	須恵器	⑨.8 ⑤.0	⑥繊粒 ⑦酸化焰 ⑧相 ⑨完形	⑩粘土 ⑪ふい糞粉 ⑫4/5	外面：輪縁整形、横ナデ。底部は回転削切り。 内面：輪縁整形、横ナデ。	8	
75	H-29 須恵器 覆土 环	須恵器	⑩.0 ⑤.0	⑥中粒 ⑦酸化焰 ⑧にふい糞粉 ⑨4/5	⑩中粒 ⑪ふい糞粉 ⑫4/5	外面：輪縁整形、横ナデ。底部は回転削切り。 内面：輪縁整形、横ナデ。		
76	H-29 須恵器 床直 皿	須恵器	⑨.8 ⑤.2	⑥繊粒 ⑦酸化焰 ⑧浅黄褐 ⑨2/3	⑩粘土 ⑪ふい糞粉 ⑫4/5	外面：輪縁整形、横ナデ。底部は高台貼付によるナデ調整。 内面：輪縁整形、横ナデ。	6	
77	H-29 須恵器 床直 环	須恵器	⑩.4 ⑤.6	⑥中粒 ⑦酸化焰 ⑧相 ⑨1/2	⑩中粒 ⑪ふい糞粉 ⑫4/5	外面：輪縁整形、口縁部横ナデ。底部は右回転削切り。 内面：輪縁整形、横ナデ。内面に黒い座盤状の物質が付着。	7	
78	H-29 須恵器 床直 环	須恵器	⑩.4 ⑤.8	⑥繊粒 ⑦酸化焰 ⑧にふい糞粉 ⑨2/3	⑩粘土 ⑪ふい糞粉 ⑫4/3	外面：輪縁整形、口縁部横ナデ。底部は回転削切り。 内面：輪縁整形、横ナデ。	4	
79	H-29 須恵器 床直 环	須恵器	⑩.4 ⑤.6	⑥繊粒 ⑦酸化焰 ⑧灰黄褐 ⑨1/2	⑩粘土 ⑪ふい糞粉 ⑫4/2	外面：輪縁整形、口縁部横ナデ。体部に輪縁痕が顯著。底部は回転削切り。 内面：輪縁整形、横ナデ。	2	
80	H-29 瓦 床直 丸瓦 2.0	瓦	長さ⑩.0 丸瓦 2.0	⑥中粒 ⑦酸化焰 ⑧灰 ⑨破片	凸面：横ナデならで。 凹面：丸い柱状、側面はへラナデ		1	
81	H-32 土師器 床直 环	土師器	⑩.0 ③—	⑥繊粒 ⑦酸化焰 ⑧相 ⑨1/4	⑩粘土 ⑪ふい糞粉 ⑫4/1	外面：口縁部横ナデ、体部へラ削り。 内面：口縁部横ナデ、底面に若頭正彌。	4	
82	H-32 土師器 覆土 环	土師器	⑩.2 ③—	⑥繊粒 ⑦酸化焰 ⑧相 ⑨1/4	⑩粘土 ⑪ふい糞粉 ⑫4/1	外面：口縁部横ナデ、体部へラ削り。 内面：口縁部横ナデ。		
83	H-35 土師器 床直 环	土師器	⑩.7 ③—	⑥繊粒 ⑦酸化焰 ⑧相 ⑨1/2	⑩粘土 ⑪ふい糞粉 ⑫4/1	外面：口縁部横ナデ、体部へラ削り。口縁部は有段となる。 内面：横ナデ。	5	
84	H-35 土師器 床直 环	土師器	⑩.5 ③—	⑥繊粒 ⑦酸化焰 ⑧相 ⑨完形	⑩粘土 ⑪ふい糞粉 ⑫4/1	外面：口縁部横ナデ、体部へラ削り。底部にビガが見受けられる。 内面：横ナデ。底部に粘土を充填した痕跡が見られる。	4	
85	H-35 土師器 床直 环	土師器	⑩.7 ③—	⑥繊粒 ⑦酸化焰 ⑧相 ⑨完形	⑩粘土 ⑪ふい糞粉 ⑫4/1	外面：口縁部横ナデ、体部へラ削り。 内面：横ナデ。		
86	H-35 土師器 床直 环	土師器	⑩.3 ③—	⑥繊粒 ⑦酸化焰 ⑧相 ⑨完形	⑩粘土 ⑪ふい糞粉 ⑫4/1	外面：口縁部横ナデ、体部へラ削り。体部前面に黒斑。 内面：口縁部横ナデ。底面に割れ目斑斑。	1	
87	H-35 土師器 床直 环	土師器	⑩.2 ③—	⑥繊粒 ⑦酸化焰 ⑧相 ⑨完形	⑩粘土 ⑪ふい糞粉 ⑫4/1	外面：口縁部横ナデ、体部へラ削り。 内面：口縁部横ナデ。底面に粘土を充填した痕跡が見られる。	2	
88	W-1 須恵器 覆土 高台接	須恵器	⑩.4 ⑨.5	⑥繊粒 ⑦酸化焰 ⑧浅黄褐 ⑨1/3	⑩粘土 ⑪ふい糞粉 ⑫4/3	外面：輪縁整形、口縁部横ナデ。底部は端部に抵する高台貼付によるナデ調整。内面：輪縁整形、横ナデ。		
89	W-1 須恵器 覆土 高台接	須恵器	⑩.5 ⑨.0	⑥繊粒 ⑦酸化焰 ⑧浅黄褐 ⑨1/3	⑩粘土 ⑪ふい糞粉 ⑫4/5	外面：輪縁整形、口縁部横ナデ。底部は端部に抵する高台貼付によるナデ調整。内面：輪縁整形、横ナデ。		
90	W-1 須恵器 覆土 高台接	須恵器	⑩.5 ⑨.0	⑥繊粒 ⑦酸化焰 ⑧浅黄褐 ⑨1/3	⑩粘土 ⑪ふい糞粉 ⑫4/5	外面：輪縁整形、口縁部横ナデ。体部は端部に抵する高台貼付によるナデ調整。内面：輪縁整形、横ナデ。		
91	W-1 底面 羽釜	羽釜	⑩.4 ⑨.4 ③—	⑥繊粒 ⑦酸化焰 ⑧相 ⑨1/2	⑩粘土 ⑪ふい糞粉 ⑫4/1	外面：輪縁整形、口縁部横ナデ後に鈎を貼付。体部は斜位へラ削り。 内面：輪縁整形、横ナデ。	13	
92	W-1 底面 机	須恵器	⑩.4 ③—	⑥繊粒 ⑦酸化焰 ⑧にふい糞粉 ⑨4/5	⑩粘土 ⑪ふい糞粉 ⑫4/3	外面：輪縁整形、ナデ。底部は高台貼付によるナデ調整。内面：輪縁整形、ナデ。底部と体部は人為的に打ち欠く。内面と断面に擦傷が付着する。	2	
93	W-1 底面 羽釜	羽釜	⑩.5 ⑩.2 ③—	⑥中粒 ⑦酸化焰 ⑧相 ⑨L脚部	⑩中粒 ⑪ふい糞粉 ⑫4/1	外面：輪縁整形、口縁部横ナデ後に鈎を貼付。体部は四脚付後にへラ削り。 内面：横ナデ。外曲のL脚部に焼成後の書き疵が見受けられる。	17	
94	W-1 底面 高环	須恵器	⑩.8 ⑨.6 ⑩.2	⑥繊粒 ⑦酸化焰 ⑧灰白 ⑨はぼ完形	⑩中粒 ⑪ふい糞粉 ⑫4/5	上面：輪縁整形、ナデ。底部はへラ削り。脚部と環部の接合部はナデ調整。脚部は心棒を用いて形成し、外曲は竜巖のへラ削りを施し、多角形に仕上げる。底部はナデ調整が施される。内面：环部横ナデ、环部と脚部、脚部と竜巖の接合部は割り取り、貫通する状態となる。竜巖方向の削り取りにより工具痕が見受けられる。整形の特徴から、环部、脚部、竜巖部は別々に形成されたものら、接合することが考えられる。	9.11.15	
95	W-1 底面 高环	須恵器	⑩.3 ③—	⑥中粒 ⑦酸化焰 ⑧相 ⑨L脚部1/5	⑩中粒 ⑪ふい糞粉 ⑫4/5	L脚部は横ナデ。内面：横ナデ。黒斑が見受けられる。	12	
96	W-1 底面 高环	須恵器	⑩.4 ⑩.3 ③—	⑥中粒 ⑦酸化焰 ⑧灰白 ⑨L脚部から脚部	⑩中粒 ⑪ふい糞粉 ⑫4/5	上面：脚部は心棒を用いて形成し、外曲は竜巖のへラ削りを施す。脚部下位は弧がりをもって環部と接合する。接合箇所は若干歪む。竜巖部はナデ調整が施される。脚部と他の接合部は削り取り受けられる。貫通する状態となる。整形の特徴から、环部、脚部、竜巖部は別々に形成されたものら、接合することが思われる。	4	
97	W-1 底面 环	須恵器	⑩.9 ⑩.4 ③—	⑥繊粒 ⑦酸化焰 ⑧相 ⑨完形	⑩粘土 ⑪ふい糞粉 ⑫4/7	外面：輪縁整形、横ナデ。底部は回転削切り。 内面：輪縁整形、横ナデ。	6	

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	④胎土 ⑤焼成 ⑥調 ⑦過度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
98	W-1 覆土	須恵器 环	⑨.4 3.5	①細部 ②焼成化 ③浅鉢形 ④1/2	外面：輪郭整型、L縫部横ナデ。底部は静止系切り。 内面：輪郭整型、横ナデ。		
99	W-1 底面	須恵器 环	⑨.9 3.6	①細部 ②焼成化 ③浅鉢形 ④完形	外面：輪郭整型、口縫部横ナデ。底部は静止系切り。L縫部が片口状に外縮し、外面上に指紋痕が見られる。内部：輪郭整型、横ナデ。 重さ83.5g。中心部は被焼により、にじみ赤褐色を呈する。破損部は摩耗しており、製品の形状を窺うことは出来ない。内面には黒色の付着物が見られる。輪郭ナデ調整が見られる。	3	
100	W-2 覆土	鉢型 幅	長さ(10.5) 幅(6.5)	①細部 ②焼成化 ③横幅 ④破片 厚さ(3.5)	外面：輪郭整型、横ナデ。底部は回転系切り。 内面：器面は発達し、溶解物が多く付着。溶解物には緑青が少量見られる。		取り扱い
101	W-3 覆土	須恵器 环	⑧.4 ⑤.4	①細部 ②焼成化 ③黄褐 ④1/5	外面：輪郭整型、横ナデ。底部は回転系切り。 内面：器面は発達し、溶解物が多く付着。溶解物には緑青が少量見られる。		
102	D-4 覆土	須恵器 高台附	⑦— ⑧.0	①細部 ②焼成化 ③明治褐 ④底部	外面：輪郭整型、横ナデ。底部は高台貼付によるナデ調整。 内面：輪郭整型、横ナデ。		
103	D-4 覆土	灰釉 多口碗	④.0 ③—	①細部 ②焼成化 ③灰釉 ④1/10	外面：輪郭整型、横ナデ。基部は瓶向方向のへラ調整。 内面：輪郭整型、横ナデ。外側の一部に黒色物質の付着が見られる。	1	集石と同レ ベル
104	D-4 覆土	羽釜	⑪24.0 —	①焼成 ②焼成化 ③黄褐 ④1/14	外面：輪郭整型、四端部後に口縫部横ナデ。底部は継縫のへラ削り。 内面：輪郭整型、横ナデ。	3	集石と同レ ベル
105	D-4 覆土	須恵器 高台附	⑮.3 ⑧.0	①細部 ②焼成化 ③にじみ黄 ④4/5	外面：輪郭整型、L縫部横ナデ。底部は回転系切り後に端部の折がる高台を貼付。内面：輪郭整型、横ナデ。焼が付着する。	5	集石と同レ ベル
106	D-4 覆土	瓦	長さ(16.5) 平瓦	①細部 ②やや焼成化 ③灰黄褐 ④端部左側	外面：斜めへラナデ。粘土で埋ぐ付着する。 内面：布目瓦痕。端部の調整は見られない。側面はヘラナデ。	1	建物構材か ら
107	D-7 覆土	須恵器 环	①— ③—	①細部 ②焼成化 ③— ④黄褐	外面：輪郭整型、横ナデ。 内面：輪郭整型、ナデ。外側面に油煙付着。	4	
108	D-7 覆土	須恵器 环	⑨.4 ④.8	①細部 ②焼成化 ③— ④1/2	外面：輪郭整型、横ナデ。底部は回転系切り。 内面：輪郭整型、ナデ。	3	
109	D-7 覆土	須恵器 环	①— ③6.0	①細部 ②焼成化 ③— ④底部のみ	外面：輪郭整型、横ナデ。底部は回転系切り。 内面：輪郭整型、ナデ。	6	
110	D-7 覆土	須恵器 高台附	⑪4.9 ⑧.9	①焼成 ②焼成化 ③にじみ黄 ④2/3	外面：輪郭整型、横ナデ。底部は高台貼付によるナデ調整。 内面：輪郭整型、横ナデ。	4	
111	D-7 覆土	須恵器 环	⑮.2 ⑤.4	①細部 ②焼成化 ③— ④1/3	外面：輪郭整型、横ナデ。底部は回転系切り。 内面：輪郭整型、横ナデ。黒い墨膜状の物質が付着する。	2	
112	D-7 覆土	鉢	⑮.2 —	①焼成 ②焼成化 ③にじみ黄 ④1/4	外面：口縫部横ナデ。体部へラナデ。輪椅痕が覗き。	1	
113	D-8 覆土	須恵器 桶	①— ③5.6	①細部 ②焼成化 ③黄褐 ④底部1/2	外面：輪郭整型、横ナデ。底部は回転系切り後、高台貼付。 内面：輪郭整型、ナデ。		
114	D-9 覆土	須恵器 桶	①— ③—	①細部 ②焼成化 ③— ④3体組のみ	外面：輪郭整型、横ナデ。底部は高台貼付によるナデ調整。 内面：輪郭整型、横ナデ。	2	
115	D-13 覆土	須恵器 环	⑪4.8 ⑩.9	①細部 ②焼成化 ③にじみ黄 ④2/5	外面：輪郭整型、L縫部横ナデ。底部は回転系切り。 内面：輪郭整型、横ナデ。	1	
116	D-13 覆土	須恵器 环	⑮.8 ⑤.1	①細部 ②焼成化 ③— ④完形	外面：輪郭整型、L縫部横ナデ。底部は回転系切り。 内面：輪郭整型、ナデ。	3	
117	D-13 覆土	須恵器 环	⑮.9 ⑤.1	①細部 ②焼成化 ③— ④完形	外面：輪郭整型、L縫部横ナデ。底部はへラ切り。 内面：輪郭整型、横ナデ。	4	やや軟質
118	D-13 底面	須恵器 底面	⑯.5 ⑤.0	①細部 ②やや焼成化 ③灰 ④完形	外面：輪郭整型、L縫部横ナデ。体部はへラナデ。底部はへラ切り。 内面：輪郭整型、横ナデ。	2	やや軟質
119	D-14 底面	須恵器 环	⑰.8 —	①細部 ②焼成化 ③— ④底部のみ	外面：輪郭整型、横ナデ。底部は静止系切り。	1	118の若か
120	D-14 底面	須恵器 高台附	⑮.0 ⑧.5	①細部 ②焼成化 ③— ④3/4	外面：輪郭整型、横ナデ。底部は高台貼付によるナデ調整。	3	
121	D-14 底面	灰釉 段階	⑬.4 ⑯.3	①細部 ②焼成化 ③灰 ④完形	外面：輪郭整型、横ナデ。底部はへラ起こし後、高台貼付。底部には赤色顔料が付着する。釉薬は清掛け。内面：輪郭整型、ナデ。	4	
122	D-16 底面	須恵器	⑯.0 ④.4	①細部 ②深元燒 ③— ④1/2	外面：輪郭整型、ナデ。底部はへラ起こし。	7	箱形土器
123	D-16 底面	須恵器 桶	①— ③5.4	①細部 ②焼成化 ③にじみ桶(底部のみ)	外面：輪郭整型、底部は回転系切り。 内面：黒い墨膜状物質が付着する。	3	
124	D-18 覆土	須恵器 环	⑯.9 ⑤.6	①細部 ②焼成化 ③浅鉢形 ④3/5	外面：輪郭整型、横ナデ。底部は静止系切り。 内面：輪郭整型、ナデ。		
125	D-18 底面	須恵器 环	⑯.6 ⑤.8	①細部 ②焼成化 ③灰白 ④はざ完形	外面：輪郭整型、横ナデ。底部は静止系切り。 内面：輪郭整型、ナデ。	1	
126	D-20 底面	須恵器 环	⑯.9 ⑤.6	①細部 ②焼成化 ③灰 ④はざ完形	外面：輪郭整型、横ナデ。底部は静止系切り。	2	
127	O-1 底面	須恵器 环	⑯.6 ⑤.2	①細部 ②焼成化 ③灰 ④完形	外面：輪郭整型、L縫部横ナデ。底部は回転系切り。	1	
128	O-2 覆土	須恵器 桶	⑮.0 ⑤.6	①細部 ②焼成化 ③にじみ桶 ④1/2	外面：輪郭整型、横ナデ。底部は回転系切り。		
129	O-2 底面	須恵器 环	⑮.0 ④.9	①細部 ②焼成化 ③にじみ灰 ④完形	外面：輪郭整型、L縫部横ナデ。底部は突出し、回転系切り。	1	
130	O-2 底面	須恵器 环	⑯.7 ⑧.1	①細部 ②焼成化 ③灰褐 ④1/3	外面：輪郭整型、横ナデ。底部は回転系切り。	2	

番号	出土遺構 部位	器種名	①L径 ②D高 ③底径		④胎土 ⑤焼成 ⑥色調 ⑦保存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
			①	②				
131	X239 Y202	須恵器 壺	①— ③—	②[10.2] ③[3.3]	④細粒 ⑤液化焰 ⑥墨 ⑦1回輪片	外面：輪縁整形、横ナデ。丁寧な磨きで平滑に仕上げる。底部は内面有段の高台を貼付。内面：輪縁整形、横磨き後に倒位磨きを施す。遺物4に近似。		内外面に黒色処理
132	X238 Y202	灰釉 多口瓶	①— ③—	②— ③—	④細粒 ⑤液化焰 ⑥灰白 ⑦4回輪片	外面：輪縁整形、横ナデ。 内面：輪縁整形、横ナデ。		
133	X239 Y202	須恵器 壺	①— ③—	②[10.1]	④細粒 ⑤液化焰 ⑥淡黄褐 ⑦底部片	外面：輪縁整形、底面部曲能所は横ナデ。 内面：輪縁整形、横ナデ。	1	
134	X240 Y203	須恵器 壺	①— ③—	②[3.4]	④細粒 ⑤液化焰 ⑥灰白 ⑦4回輪片	外面：輪縁整形、上部丁寧な磨きで平滑に仕上げる。底部は回転系切り後、高台を貼付。内面：輪縁整形、丁寧な磨きで平滑に仕上げる。		
135	X240 Y203	須恵器 壺	①[13.7] ③—	②[5.3]	④細粒 ⑤液化焰 ⑥灰白 ⑦2/5	外面：輪縁整形、横ナデ。底部は高台貼付によるナデ調整。底部に白濁した物質が付着。詳細は化学分析へ。内面：輪縁整形、横ナデ。		
136	X240 Y203	須恵器 壺	①[9.5] ③—	②[2.1]	④中粒 ⑤液化焰 ⑥灰白 ⑦2/5	外面：輪縁整形、U1脚部横ナデ。底部は回転系切り。 内面：輪縁整形、横ナデ。		
137	X240 Y205	須恵器 壺	①[9.4] ③—	②[2.5]	④細粒 ⑤液化焰 ⑥灰白 ⑦4回輪片	外面：輪縁整形、U1脚部横ナデ。底部は突出し、回転系切り。 内面：輪縁整形、横ナデ。		
138	X239 Y205	須恵器 壺	①[8.8] ③—	②[1.7]	④中粒 ⑤液化焰 ⑥淡黄褐 ⑦完形	外面：輪縁整形、横ナデ。底部は回転系切り。 内面：輪縁整形、横ナデ。	2	
139	X238 Y204	須恵器 壺	①[8.8] ③—	②[1.9]	④中粒 ⑤液化焰 ⑥淡黄褐 ⑦3/4	外面：輪縁整形、U1脚部横ナデ。底部は回転系切り。 内面：輪縁整形、横ナデ。	1	
140	X241 Y205	灰釉 壺	①[15.0] ③—	②[5.4]	④細粒 ⑤液化焰 ⑥灰白 ⑦1/2	外面：輪縁整形、横ナデ。底部は高台貼付によるナデ調整。高台端部はやや突出する。残葉は削取。内面：輪縁整形、横ナデ。胎土は褐色。	3	土坑からの出土
141	X240 Y206	須恵器 壺	①— ③—	②[1.5]	④細粒 ⑤液化焰 ⑥灰白 ⑦底部片	外面：輪縁整形、丁寧な磨き、欠損する底部は高台貼付後に丁寧な磨きを施す。平滑化する。輪縁整形、丁寧な磨き。		内面に黒色処理
142	X240 Y204	須恵器 壺	①— ③—	②—	④細粒 ⑤液化焰 ⑥灰白 ⑦破片	外面：測量によるものか、器は無い。高台貼付の跡跡が見られる。 内面：丁寧な磨きで平滑化。		
143	調査区 壺	須恵器 壺	①[8.4] ③[4.6]	②[2.3]	④細粒 ⑤液化焰 ⑥3粒 ⑦破片	外面：輪縁整形、底面部回転系切り。底部に墨書きあり。 内面：輪縁整形、横ナデ。		
144	H-7 覆土	須恵器 壺	①— ③—	②[1.5]	④細粒 ⑤液化焰 ⑥灰白 ⑦底部片	外面：輪縁整形、底面部は回転系切り。重ねて書かれた墨書きあり。 内面：輪縁整形、ナデ。		習書土器か
145	調査区 瓦	須恵器 瓦	①[18.5] ③—	②[1.4]	④細粒 ⑤液化焰 ⑥3粒 ⑦瓦輪左側	凸面：ラグラナデ。自然軸の付着が顯著。 凹面：布石瓦痕。路筋は面取り。無面はヘラナデ。		
146	調査区 検	須恵器 壺	①[9.6] ③—	②[3.2]	④細粒 ⑤液化焰 ⑥灰白 ⑦3/5	外面：輪縁整形、U1脚部横ナデ。底部は回転系切り後に高台附付。 内面：輪縁整形、横ナデ。		
147	調査区 壺	須恵器 壺	①[10.5] ③—	②[2.4]	④細粒 ⑤液化焰 ⑥灰白 ⑦5/7	外面：輪縁整形、横ナデ。底部は回転系切り。 内面：輪縁整形、横ナデ。		
148	調査区 壺	須恵器 壺	①[8.8] ③—	②[1.8]	④中粒 ⑤液化焰 ⑥灰白 ⑦3/5	外面：輪縁整形、U1脚部横ナデ。底部は回転系切り。 内面：輪縁整形、横ナデ。		
149	調査区 壺	須恵器 壺	①[8.6] ③—	②[1.8]	④中粒 ⑤液化焰 ⑥淡黄褐 ⑦3/5	外面：輪縁整形、底部は回転系切り。 内面：輪縁整形、横ナデ。		
150	調査区 壺	須恵器 壺	①[9.5] ③—	②[2.4]	④中粒 ⑤液化焰 ⑥3粒 ⑦5/5	外面：輪縁整形、U1脚部横ナデ。底部はやや突出し、回転系切り。 内面：輪縁整形、横ナデ。		
151	調査区 壺	須恵器 壺	①[8.6] ③—	②[2.0]	④中粒 ⑤液化焰 ⑥3粒 ⑦5/5	外面：輪縁整形、横ナデ。底部は回転系切り。 内面：輪縁整形、横ナデ。底部に回転系切りの跡跡が見られる。		
152	調査区 壺	須恵器 壺	①[9.2] ③—	②[2.0]	④中粒 ⑤液化焰 ⑥3粒 ⑦4/9	外面：輪縁整形、U1脚部横ナデ。底部は回転系切り。 内面：輪縁整形、横ナデ。		
153	調査区 壺	須恵器 壺	①[13.8] ③[7.6]	②[3.7]	④細粒 ⑤液化焰 ⑥3粒 ⑦4/5	外面：輪縁整形、横ナデ。底部は回転系切り。 内面：輪縁整形、横ナデ。内面に油煙が顯著に付着する。		
154	調査区 檢	須恵器 壺	①— ③—	②[2.0]	④細粒 ⑤液化焰 ⑥3粒 ⑦底部片	外面：輪縁整形、底面部は削り落し高台。胎土は灰黄色。		輸入陶器か
155	X240 Y205他	綠釉 段鉢	①[14.0] ③—	②[2.3]	④細粒 ⑤液化焰 ⑥昭和リーフ ⑦1/3	外面：輪縁整形、横ナデ。胎土は淡黄褐色を呈する。	X240・Y205他1, X239・Y205他1	
156	X240 Y203	綠釉 段鉢	①— ③—	②—	④細粒 ⑤液化焰 ⑥3粒 ⑦底部片	外面：輪縁整形、横ナデ。胎土は淡黄褐色を呈する。	155と同一個体	
157	H-13 覆土	綠釉 段鉢	①— ③—	②—	④細粒 ⑤液化焰 ⑥3粒 ⑦底部片	外面：輪縁整形、横ナデ。胎土は淡黄褐色を呈する。	155と同一個体	
158	X240 Y204	綠釉 段鉢	①— ③—	②—	④細粒 ⑤液化焰 ⑥3粒 ⑦オリーブ	外面：輪縁整形、横ナデ。 内面：輪縁整形、横ナデ。陰刻が施される。胎土は灰色を呈する。		
159	X238 Y204	磁器 檢	①— ③—	②—	④細粒 ⑤液化焰 ⑥3粒 ⑦オリーブ	外面：輪縁整形、U1脚部は薄くシャープに仕上げる。 内面：輪縁整形、横ナデ。		青磁か
160	調査区 綠釉	綠釉 檢	①— ③—	②—	④細粒 ⑤液化焰 ⑥3粒 ⑦底部片	外面：輪縁整形、横ナデ。胎土には灰白色を呈する。		
161	X239 Y205	白磁 皿	①— ③—	②—	④細粒 ⑤液化焰 ⑥3粒 ⑦U1脚部から内部	外面：輪縁整形、体部は稍曲をもって立ちあがり、U1脚部は短く外反する。 内部：体部と底部の間に凹、凹縫が施される。体部の下位以外は施釉される。		
162	X239 Y205	白磁 皿	①— ③—	②—	④細粒 ⑤液化焰 ⑥3粒 ⑦U1脚部から内部	外面：輪縁整形、体部は短く立ちあがり、U1脚部は厚壁する。 内面：輪縁整形。		
163	X240 Y205	白磁 皿	①— ③—	②—	④細粒 ⑤液化焰 ⑥3粒 ⑦U1脚部	外面：輪縁整形、玉緑状のU1脚。		
164	X239 Y204	白磁 皿	①— ③—	②—	④細粒 ⑤液化焰 ⑥3粒 ⑦U1脚部	外面：輪縁整形、U1脚部は鋭角に仕上げる。 内面：輪縁整形。		

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②底径 ③底深	④胎土 ⑤焼成 ⑥色調 ⑦遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
165	X239-9 Y202	灰釉 瓶	①— ②(7.2)	③胎土 ④元燒 ⑤灰白色 ⑥全體	外面：輪轂整形、横ナデ。口縁部は外傾する。内面：輪轂整形、横ナデ。底辺の輪が全体に施釉される。胎土は上位は灰白、下位は黄褐色を呈する。	X240・Y202 と接合	
166	X240 Y202	灰釉 瓶	①— ②(4.8)	③胎土 ④元燒 ⑤灰白色 ⑥全體	外面：口縁部は外傾する。体部上位に輪が見られる。内面：横ナデ。底辺の輪が内面全体に施釉される。胎土は灰白色を呈する。	165と同一	
167	X239 Y202	灰釉 瓶	①— ②(2.1)	③胎土 ④元燒 ⑤灰白色 ⑥全體	外面：輪轂整形。全体に輪が施釉される。内面：輪轂整形、明オリーブ灰の輪が施釉される。胎土は灰白色を呈する。	165と同一	
168	H-11 床直	灰釉 瓶	①— ②(2.0)	③胎土 ④元燒 ⑤灰白色 ⑥下位	外面：輪轂整形。下位は輪が施されず、脚窓がのぞく。内面：輪轂整形、明オリーブ灰の輪が施釉される。胎土は灰白色を呈する。	7	165と同一
169	H-1 羽口	土製品 陶土	長さ(8.5)、幅(8.3)、厚さ3.0、内径(2.1)、重さ180gを測る。中ほどの部位で、熱変色が見受けられる。胎土はスサが含まれる。				1
170	H-10 覆土	土製品 陶土	長さ(6.5)、幅(6.3)、厚さ、内径(2.1)、重さ96.5gを測る。先端部の下位である。先端は流動溝が付着する。胎土はスサが含まれる。				
171	X238 Y203	土製品 羽口	長さ(7)、幅(4.4)、厚さ1.8、重さ29.2gを測る。先端部に近い箇所で、熱変色が見受けられる。胎土はスサが含まれる。				
172	H-4 覆土	土製品 不明	長さ(7)、幅(4.0)、厚さ1.0g 重さ110g	①中輪 ②輪化焰 ③橙 ④一部	断面は梢円形を呈し、表面は廢きを施す。		10
173	調査区	灰陶	長さ4.2 厚さ3.1	①輪化 ②輪化焰 ③浅鉢形 ④柄のみ	外面：先端はへらによる切り離し。柄部分はへらにより面取りを行う。 内面：横ナデ。		
174	X238 Y203	鋸鋸車	①— ②—	③輪化焰 ④一部	外面：輪轂整形、横ナデ。底部は高台貼付によるナデ調整。 内面：輪轂整形。丁寧に磨き、平滑化する。	内面に黒色 処理	
175	調査区	土製品 土鍋	長さ(4.4) 厚さ(1.3)	①輪化 ②輪化焰 ③にふい格子はぼ定形	心棒に粘土を巻きつけて製作。外面は丁寧な磨きが施される。孔径3mm。		
176	調査区	石製品 四石	2/3現存、形状は梢円形を呈し、高さ10.5、孔径9、重量1830gを測る。内面に擦痕は見受けられない。外面は被熱を受けている。				
177	H-1 床直	鐵製品 不明	長さ(7.6)、厚さ0.3、重さ9.1gを測る。やや鉛行し、両端を欠損する。				2
178	H-7 鐵製品 覆土	鐵製品 釘	長さ(5.5)、厚さ0.5、重さ8.1gを測る。両端を欠損する。				
179	H-10 鐵製品 柱内	鐵製品 不明	長さ(2.0)でL型に屈曲する。厚さ0.4、重さ4.6gを測る。両端を欠損する。				
180	H-10 鐵製品 床直	鐵製品 釘	長さ(5.9)、厚さ0.5、重さ12.4gを測る。先端を欠損する。				17
181	H-10 鐵製品 覆土	鐵製品 釘	長さ(7.0)、最大厚さ0.5、重さ7.5gを測る。両端を欠損する。				
182	H-11 鐵製品 覆土	鐵製品 釘	長さ(4.4)、最大厚さ0.5、重さ4.5gを測る。両端を欠損する。				
183	H-25 鐵製品 刀子	刀子	長さ(3.7)、幅1.1 厚さ0.3、重さ7.9gを測る。両端を欠損する。木質柄が僅かに残る。				
184	H-23 鐵製品 床直	鐵製品 釘	「S」字状に曲げる。先端を欠損する。重さ19.8gを測る。				7
185	W-1 鐵製品 覆土	鐵製品 刀子	長さ(3.8)、幅0.9、厚さ0.2、重さ4.4gを測る。両端を欠損する。				
186	W-3 鐵製品 覆土	鐵製品 不明	長さ(3.5)、厚さ0.5、重さ3.1gを測る。両端を欠損する。				
187	X239 Y202	鐵製品 筋跡車	直径4.1、厚さ0.3、重さ20.8gを測る。軸部は欠損する。				
188	X238 Y203	鐵製品 釘	先端に瘤状突起が付く。長さ(5.5)、幅0.9、厚さ0.5、重さ15.4gを測る。				1
189	X238 Y203	鐵製品 釘	長さ(6.5)、最大厚さ0.9、重さ6.2gを測る。基部を欠損する。				
190	X239 Y203	鐵製品 釘	長さ(6.0)、最大幅0.6、厚さ0.3、重さ7.6gを測る。両端を欠損する。				
191	X239 Y206	鐵製品 釘	長さ(8.5)、最大厚さ0.5 重さ23.0gを測る。先端を欠損する。				6
192	X238 Y206	鐵製品 釘	長さ(8.4)、最大幅0.6、厚さ0.3、重さ13.6gを測る。基部を欠損する。				
193	X239 Y206	鐵製品 雁又鐵	長さ(9.9)、重さ33.8gを測る。左右の先端と基部を欠損する。				
194	W-3 鐵製品 覆土	鐵製品 不明	直径2.3、高さ0.6、重さ3.0gを測る。ドーム状に膨らみを持ち、中心は穿孔される。				
195	H-4 鐵製品 覆土	石製品 臼玉	直径0.8、厚さ0.4、重さ0.4gを測る。石材は滑石。				
196	H-4 鐵製品 覆土	石製品 臼玉	直径0.6、厚さ0.5、重さ0.3gを測る。石材は滑石。				
197	H-10 鐵製品 床下	石製品 臼玉	直径1.3、厚さ0.6、重さ1.9gを測る。石材は滑石。側面の磨きが顕著。				床下土坑(3、H-32に 伴うか)
198	H-16 鐵製品 床直	石製品 臼玉	直径0.6、厚さ0.4、重さ0.4gを測る。石材は滑石。				2

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	④胎土 ⑤焼成 ⑥色調 ⑦遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
199	H-35 遺	石製品 白玉			直径0.7、厚さ0.3、重さ0.3gを測る。石材は滑石。	1	
200	X240 Y205	石製品 白玉			直径0.4、厚さ0.3、重さ0.1gを測る。石材は滑石。		
201	H-23 床灰	石製品 焼造品			直径2.0、厚さ0.9、重さ6.5gを測る。石材は滑石。	2	
202	X240 Y206	石製品 焼造品			直径(1.4)、厚さ0.8、重さ4.2gを測る。切断の痕跡が見られる。石材は滑石。		
203	X240 Y206	石製品 焼造品			直径2.3、厚さ0.9、重さ5.3gを測る。切断の痕跡が見られる。石材は滑石。		
204	H-25 石製品 覆土 轟石				直径1.8、厚さ0.7、重さ3.6gを測る。		白石
205	X240 Y205	石製品 轟石			最大径2.4、厚さ1.3、重さ10.0gを測る。片面は被熱により墨褐色となる。		白石
206	XZ39 Y206	石製品 轟石			最大径1.3、厚さ0.6、重さ1.2gを測る。		白石
207	X240 Y204	石製品 轟石			直径1.1、厚さ0.5、重さ0.7gを測る。		白石
208	H-8 石製品 覆土 轟石				直径1.7、厚さ1.1、重さ3.7gを測る。		黒石
209	D-13 石製品 覆土 轟石				直径1.8、厚さ0.7、重さ3.5gを測る。		赤石
210	X240 Y204	土製品 轟石			最大径2.1、厚さ0.4、重さ2.1gを測る。灰釉陶器片を円状に打ち欠く。		
211	H-11 土製品 轟石				最大径1.9、厚さ0.5、重さ2.1gを測る。灰釉陶器片を円状に打ち欠く。		
212	W-1 土製品 轟石				最大径1.8、厚さ0.3、重さ1.4gを測る。灰釉陶器の上縁部片を円状に打ち欠く。		
213	X240 Y204	土製品 轟石			最大径1.9、厚さ0.4、重さ2.1gを測る。灰釉陶器片を円状に打ち欠く。		
214	W-1 土製品 轟石				最大径2.0、厚さ1.0、重さ2.6gを測る。土師器片を円状に加工する。側面は円滑化する。		
215	XZ39 Y204	土製品 轟石			最大径2.4、厚さ1.0、重さ9.4gを測る。須恵器片を円状に打ち欠く。		
216	H-10 土製品 轟石				最大径1.8、厚さ0.5、重さ1.8gを測る。土師器片を円状に打ち欠く。側面は円滑化する。		
217	X240 Y204	土製品 轟石			最大径1.9、厚さ0.6、重さ2.3gを測る。黒色土器を円状に打ち欠く。		内外面に黒色處理

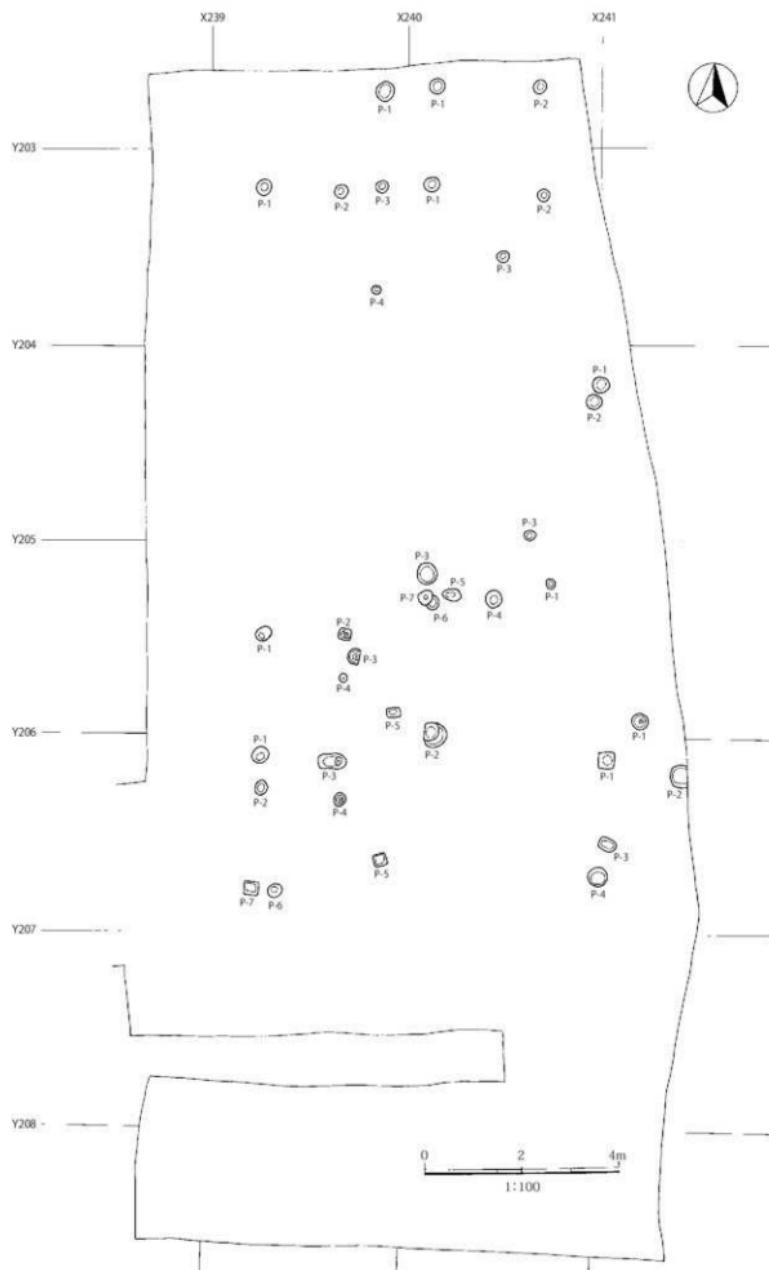


Fig.6 ピットの分布（中世面）

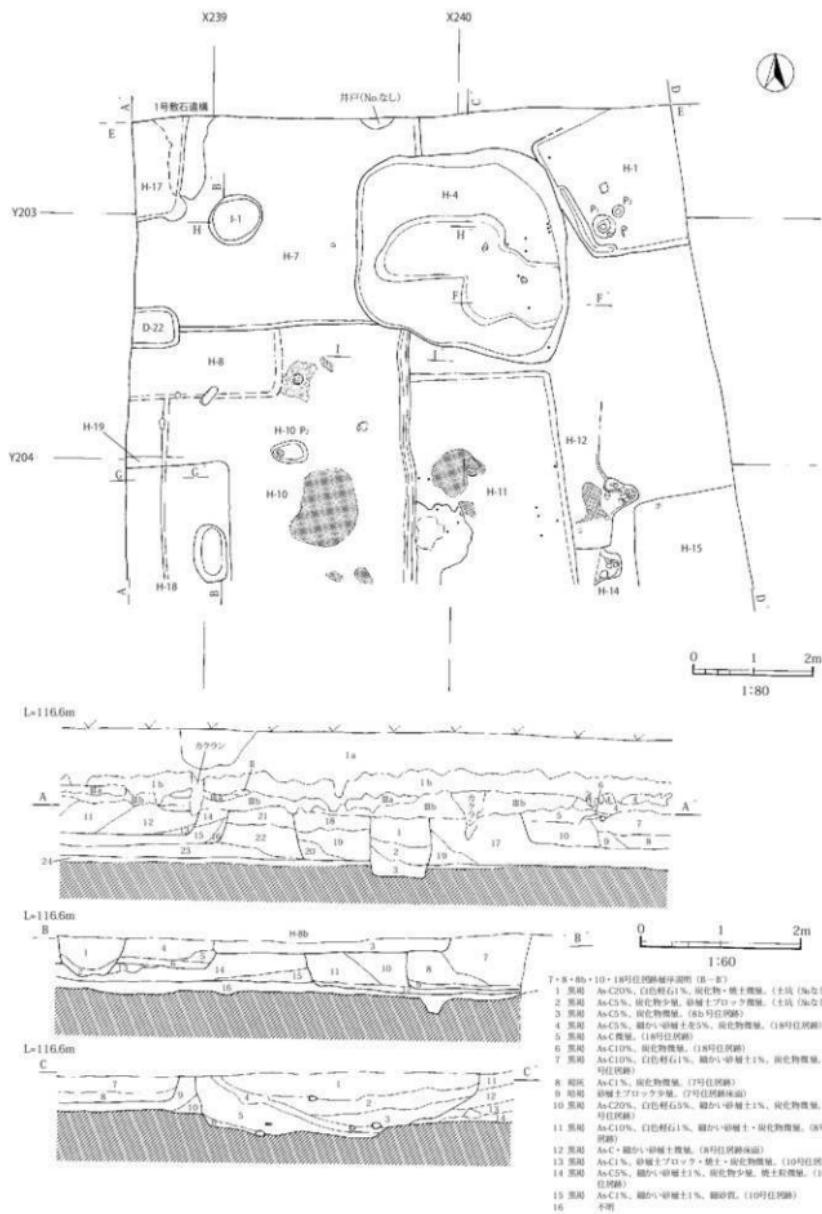


Fig.7 各遺構図（調査区北部）上層

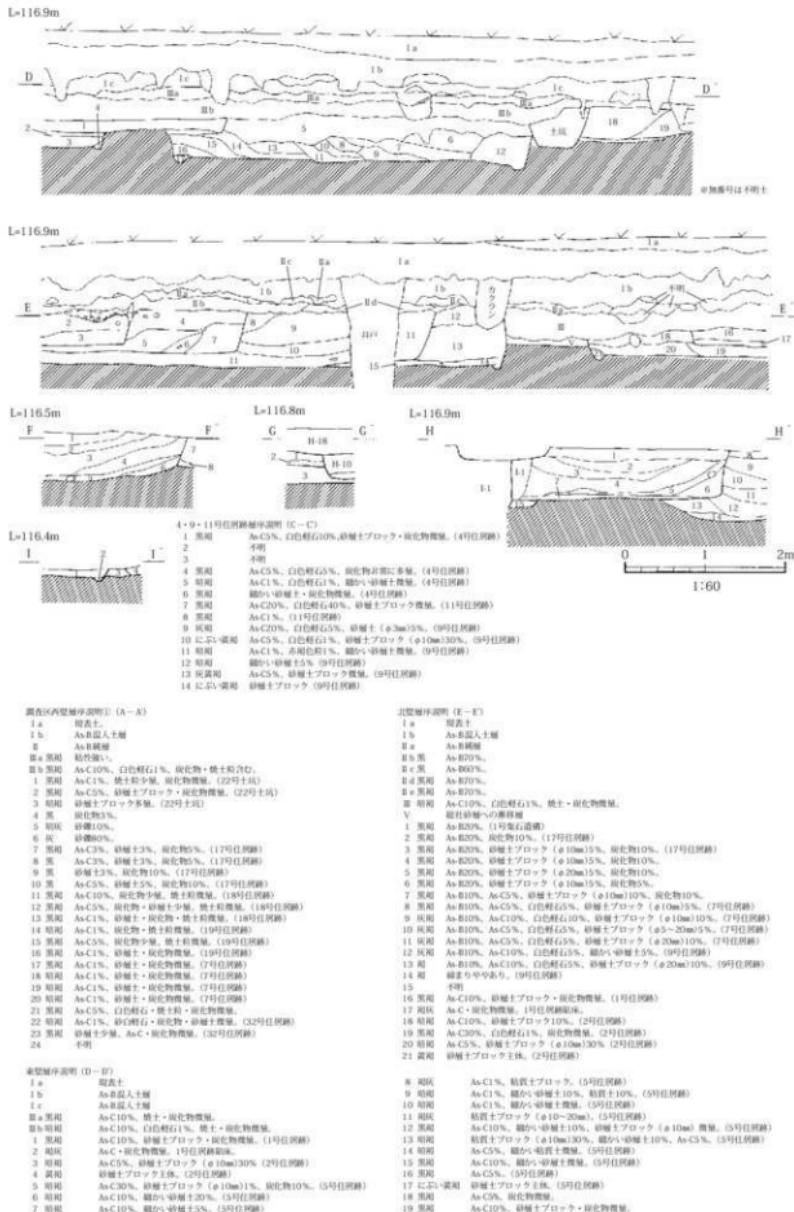


Fig.8 各遺構土層堆積図（調査区北部）

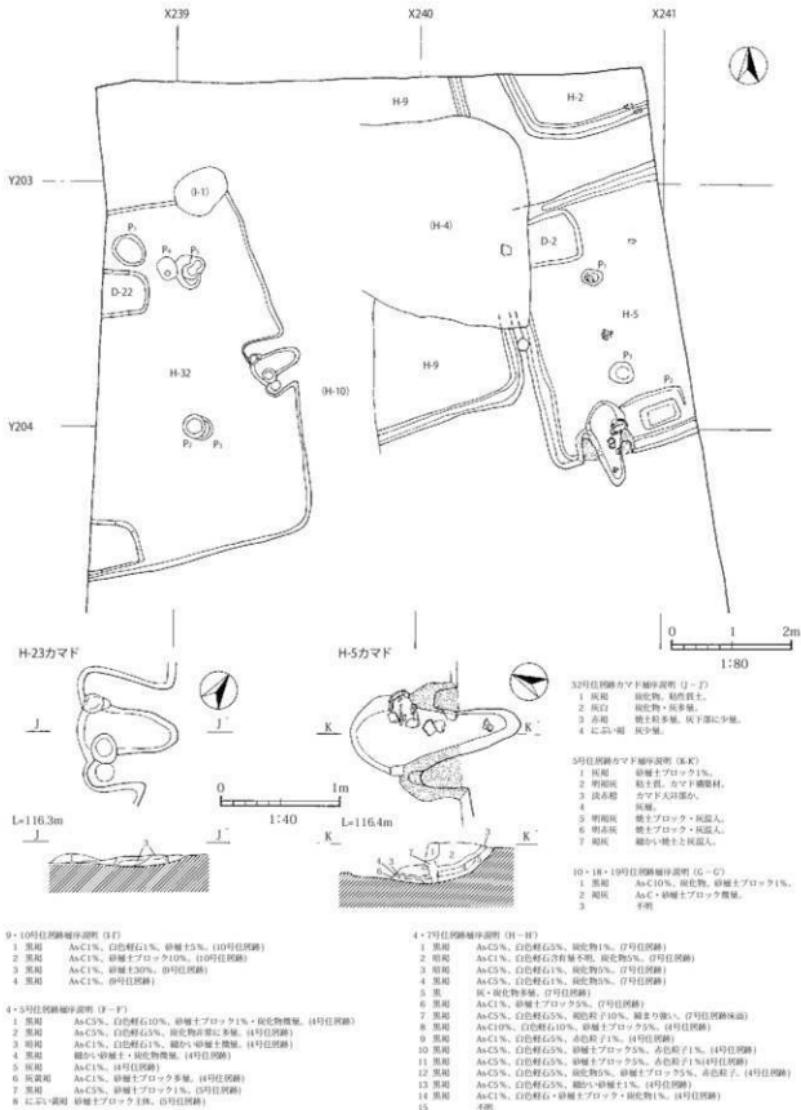
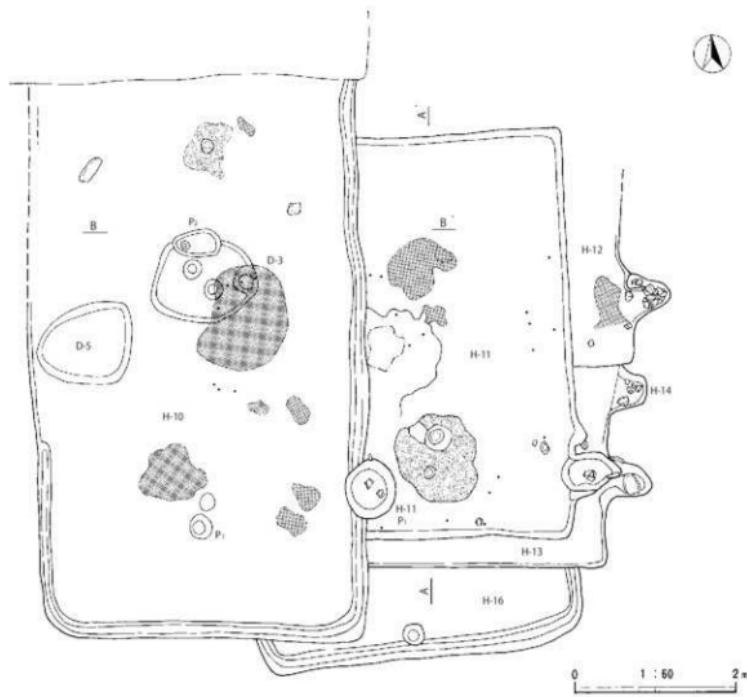


Fig.9 各遺構図（調査区北部）下層



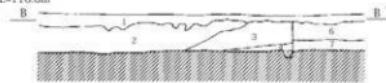
L=116.8m



9・11・13号柱狀岩序剖面

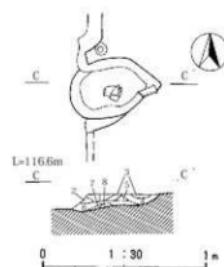
- 1 黒闊 砂礫物50%、粘土5%、多孔
- 2 黒闊 As-C10%、砂礫物25%、硫化物5% (1号柱状岩)
- 3 明闊 As-C20%、白色粘G5% (1号柱状岩)
- 4 黒闊 As-C10%、白色粘G1%、細かい砂礫土・硫化物5% (1号柱状岩)
- 5 黒闊 As-C10%、白色粘G1%、細かい砂礫土・硫化物5% (1号柱状岩)
- 6 黒闊 As-C1%、細かい砂礫土1% (1号柱状岩)
- 7 黒闊 As-C1%、細かい砂礫土10% (1号柱状岩)
- 8 黒闊 As-C1%、細かい砂礫土10% (1号柱状岩)

L=116.6m



9・11号柱状岩序剖面

- 1 黒闊 As-C10%、硫化物5%、粘土1% (10号柱状岩)
- 2 明闊 As-C5%、白色粘石1%、細かい砂礫土5%、硫化物1% (10号柱状岩)
- 3 黒闊 As-C10%、白色粘G1%、細かい砂礫土5%、硫化物1% (10号柱状岩)
- 4 黒闊 As-C5%、細かい砂礫土20%、硫化物1% (10号柱状岩)
- 5 黒闊 As-C5%、白色粘石1% (11号柱状岩)
- 6 黒闊 As-C5%、白色粘石1% (11号柱状岩)
- 7 黒闊 As-C10%、砂礫土20% (11号柱状岩)



11号柱状岩序マップ層序剖面

- 1 にじく闊 硫化物・粘土1%、砂礫土30%
- 2 黒闊 硫化物20%、粘土1%、砂礫土1%
- 3 黒闊 硫化物1%
- 4 にじく闊 粘土
- 5 黒闊 硫化物・粘土約30%
- 6 黒闊 硫化物20%、粘土5%
- 7 黒闊 粘土
- 8 明闊層 必崩土ブロック

Fig.10 各遺構図 (調査区中央部)

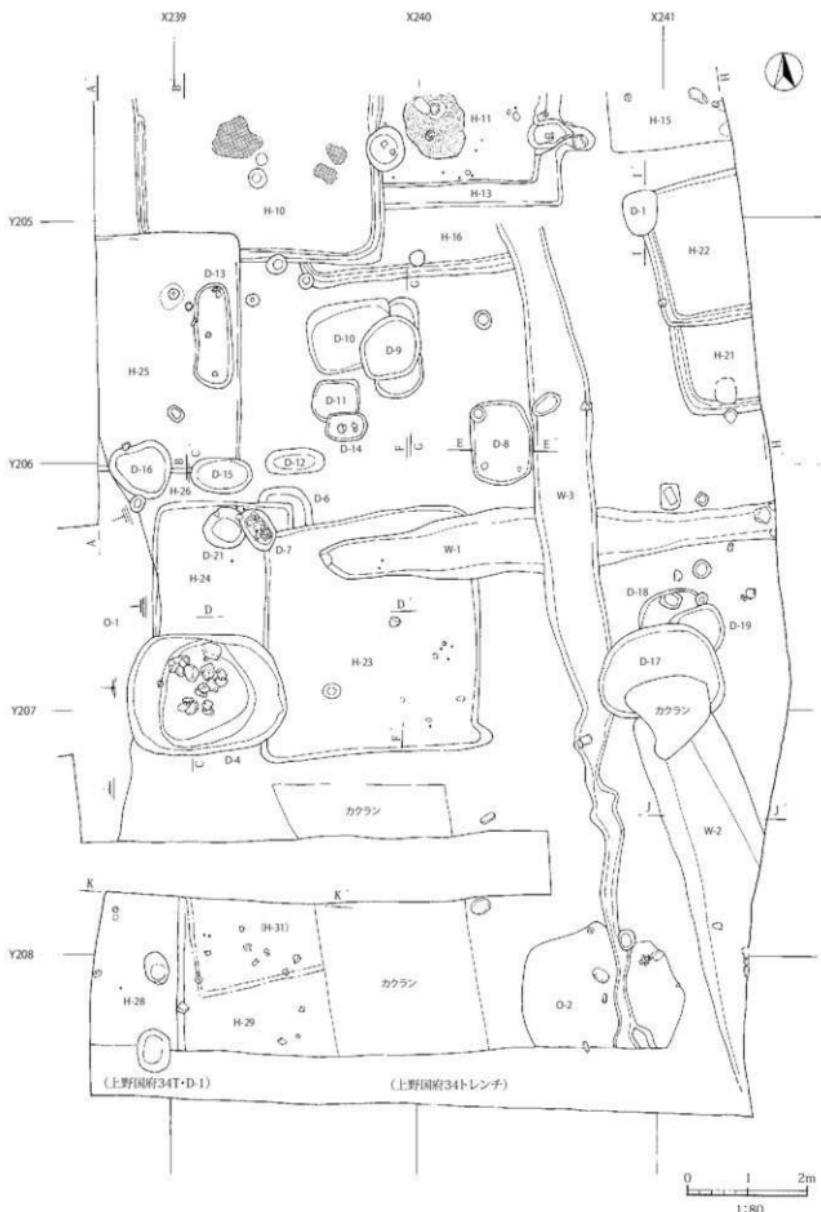
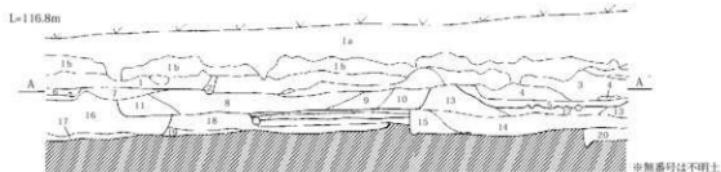
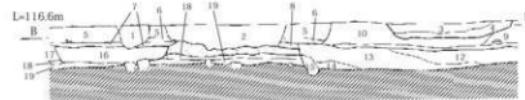


Fig.11 各遺構図（調査区中央～南部）

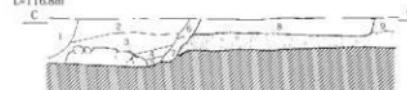


調查（內容順序說明）（A-A）

- | | |
|------------|-------------------------------------|
| 1 黒岩 | $Ae-C$ ・白石岩・花崗岩帶。泥炭よりやあり。 |
| 2 黒岩 | $Ae-C$ ・黒雲母岩。 |
| 3 黒岩 | 砂岩・粘土岩・水成岩。 |
| 4 砂岩 | 砂岩・土岩・粘土岩。縫隙よりやあり。 |
| 5 黒岩 | $Ae-C5%$ ・花崗岩帶。下部は泥炭があり縫隙多くなる。 |
| 6 砂岩 | $Ae-C$ ・花崗岩帶。 |
| 7 黒岩 | $Ae-C1%$ ・花崗岩帶。 |
| 8 黒岩 | 砂岩・粘土岩・水成岩・花崗岩・堆積岩。縫隙よりやあり。(25号丘頂部) |
| 9 黒岩 | $Ae-C1%$ ・砂岩・粘土岩・花崗岩・堆積岩。(25号丘頂部) |
| 10 黒岩 | $Ae-C5%$ ・花崗岩帶。下部は泥炭までに入る。(25号丘頂部) |
| 11 黒岩 | $Ae-C1%$ ・砂岩・粘土岩。(25号丘頂部) |
| 12 黒岩 | $Ae-C5%$ ・花崗岩・堆積岩。 |
| 13 黒岩 | $Ae-C5%$ ・花崗岩・堆積岩。 |
| 14 黒岩 | $Ae-C3%$ ・花崗岩・土岩・粘土岩。(9号丘頂) |
| 15 黒岩 | 砂岩・粘土岩・花崗岩・堆積岩。(9号丘頂部) |
| 16 黒岩 | $Ae-C1%$ ・花崗岩帶。 |
| 17 黒岩 | $Ae-C5%$ ・花崗岩・堆積岩。 |
| 18 黒岩 | $Ae-C5%$ ・花崗岩・堆積岩。 |
| 19 二二二(黒岩) | 砂岩・土岩・花崗岩・堆積岩。 |
| 20 明礬 | 砂岩・土岩・ $Ae-C$ ・花崗岩帶。(2号丘頂部) |
| 1 黒岩 | $Ae-C$ ・花崗岩帶。 |
| 2 黒岩 | $Ae-C$ ・白石岩・花崗岩・土岩・粘土岩。 |
| 3 黒岩 | 砂岩・粘土岩・花崗岩・堆積岩。 |
| 4 黒岩 | 下部に泥炭があり縫隙よりやあり。 |
| 5 黒岩 | $Ae-C5%$ ・砂岩・粘土岩・花崗岩・堆積岩。 |
| 6 黒岩 | $Ae-C$ ・黒雲母岩・粘土岩・花崗岩・堆積岩。 |
| 7 黒岩 | $Ae-C$ ・花崗岩・堆積岩・粘土岩。 |
| 8 黒岩 | 砂岩・粘土岩・花崗岩・堆積岩・粘土岩。 |
| 9 黒岩 | $Ae-C5%$ ・砂岩・粘土岩・花崗岩・堆積岩。(9号丘頂) |
| 10 黒岩 | $Ae-C5%$ ・砂岩・粘土岩・花崗岩・堆積岩。(9号丘頂) |
| 11 黒岩 | $Ae-C10%$ ・花崗岩・堆積岩。縫隙よりやあり。 |
| 12 黒岩 | $Ae-C$ ・花崗岩・堆積岩・粘土岩・砂岩。(10号丘頂部) |
| 13 黑岩 | $Ae-C5%$ ・花崗岩・堆積岩・粘土岩・砂岩。(10号丘頂部) |
| 14 明礬 | $Ae-C5%$ ・砂岩・粘土岩・花崗岩・堆積岩。(10号丘頂部) |
| 15 明礬 | 砂岩・粘土岩・花崗岩・堆積岩。 |
| 16 明礬 | $Ae-C5%$ ・砂岩・粘土岩・花崗岩・堆積岩。 |
| 17 明礬 | 砂岩・粘土岩・花崗岩・堆積岩。 |
| 18 黒岩 | $Ae-C$ ・花崗岩・堆積岩・粘土岩。 |
| 19 明礬 | $Ae-C$ ・花崗岩・堆積岩。縫隙よりややあり。 |



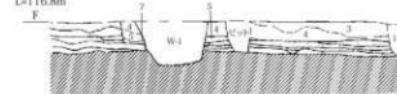
L=116.8m



L=116.9m



1-116-9



24頁

- | 4月往跡、4月1日地質調査 (CCT) | |
|---------------------|----------------------------|
| 1 鮎崎周 | As-C1%、砂岩層トロカテ風化。(4号土壌) |
| 2 黒磯 | As-C1%、白色輕石層、褐化物風化。(4号土壌) |
| 3 黒磯 | As-C1%、白色石英層、難い砂層風化。(4号土壌) |
| 4 黒磯 | As-C1%、砂層+少々粘土層。(4号土壌) |
| 5 明照原 | 砂層アリロック層。(4号土壌) |
| 6 黒磯 | As-C1%、砂層風化。(4号土壌) |
| 7 黒磯 | As-C1%、砂層風化。(4号土壌) |
| 8 黒磯 | As-C1%、白色輕石層、褐化物風化。(2号往跡) |
| 9 黒磯 | As-C1%、白色石英層、砂層アリロック風化。 |

8号土坑墙脚剖面(东—西)

L=116.6m



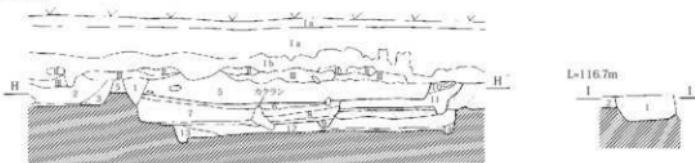
9月主机照片说明 (G-G')

- 1 黑褐 As-C- 錫かい40種石10%、白色輕石5%
 - 2 黑褐 錫かい40種石十多種。
 - 3 黑褐 As-C5%、白色輕石1%、氧化物少種。
 - 4 白褐 As-C-白色輕石1%。



Fig.12 各遺構土層堆積図（調査区中央～南部）①

L=116.7m



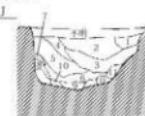
15・20・21・22・36号鉄跡解剖剖面 (H-H')

- 1 黒灰土
- 1a 黒灰混入土
- 2 黒灰土
- 3 黒灰土
- 4 黒灰土
- 5 黒灰土
- 6 黒灰土
- 7 黒灰土 As-C3%、白色粘6%、炭化物少量。(22号鉄跡)
- 8 黒灰土 As-C3%、白色粘6%。(22号鉄跡)
- 9 黒灰土 As-C1%。(22号鉄跡)
- 10 黒灰土 As-C1%、白色粘6%、(± 10cm)少量。(22号鉄跡)
- 11 黒灰土 As-C1%、灰土少量、炭化物少量。(22号鉄跡)
- 12 黒灰土 As-C5%、細小小礫土少量。(26号鉄跡)
- 13 黒灰土 As-C5%。(26号鉄跡)
- 14 黒灰土 As-C5%、砂質土ロック少量。(36号鉄跡)

1号土坑解剖剖面 (J-J')

- 1 黒灰土 As-C5%、炭化物、下位に織か砂質土塊状。(1号土坑)
- 2 黒灰土 As-C5%

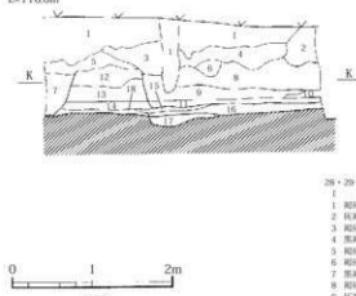
L=116.9m



3号鉄跡解剖剖面 (J-J')

- 1 灰褐土 As-B多量。
- 2 深褐色土 As-B多量。
- 3 灰褐色土 As-B少量、砂質土ブロック(±10cm)少量。
- 4 明褐色土 As-B少量。
- 5 明褐色土 As-B少量、砂質土ブロック(±10cm)多量。
- 6 明褐色土 As-B少量。
- 7 灰褐色土 砂質土ブロック(± 20~30cm)多量。
- 8 黑灰土 As-C少量。
- 9 黑灰土 As-C少量。
- 10 黑灰土 黑灰泥土ブロック主張。
- 11 黄褐土 織か砂質土多量。

L=116.6m



28・29・31号鉄跡解剖剖面 (K-K')

- 1 黑灰土
- 2 黑灰土 As-B混入土、白色粘6%、シルト質±10%。
- 3 黑灰土 As-B混入土、(±10cm)少量。
- 4 黑灰土 As-B混入土、白色粘6(10%)、ASC-C炭化物5%。
- 5 黑灰土 As-B混入土、白色粘6(5%)、AS-C5%、炭化物2%。
- 6 黑灰土 As-B混入土、白色粘6(10%)、AS-C5%。
- 7 黑灰土 As-B混入土、白色粘6(10%)、AS-C5%。
- 8 黑灰土 As-B混入土、白色粘6(10cm)、As-C、砂質土ロック、炭化物5%。
- 9 黑灰土 As-B混入土、(±10cm)C+As-C+砂質土ブロック(± 10cm)、炭化物5%。(29号鉄跡)
- 10 不明。(29号鉄跡)
- 11 黑灰土 As-B多量、(±10cm)C+As-C+砂質土ブロック(± 10cm)、炭化物10%。(29号鉄跡)
- 12 黑灰土 As-B多量、As-C、砂質土ブロック(± 10cm)、炭化物10%。(28号鉄跡)
- 13 黑灰土 As-B多量、(±10cm)C+As-C+砂質土ブロック(± 10cm)、炭化物2%。(28号鉄跡)
- 14 黑灰土 As-B多量、(±10cm)C+As-C+砂質土ブロック(± 10cm)、炭化物10%。(28号鉄跡)
- 15 に点状赤鉄 砂質土多量、織毛あり。
- 16 黑灰土 白色粘石・As-C、砂質土ブロック(± 30cm)5%、織毛あり。
- 17 黑灰土 AS-C。
- 18 黑灰土 多量。

Fig.13 各遺構土層堆積図（調査区中央～南部）②

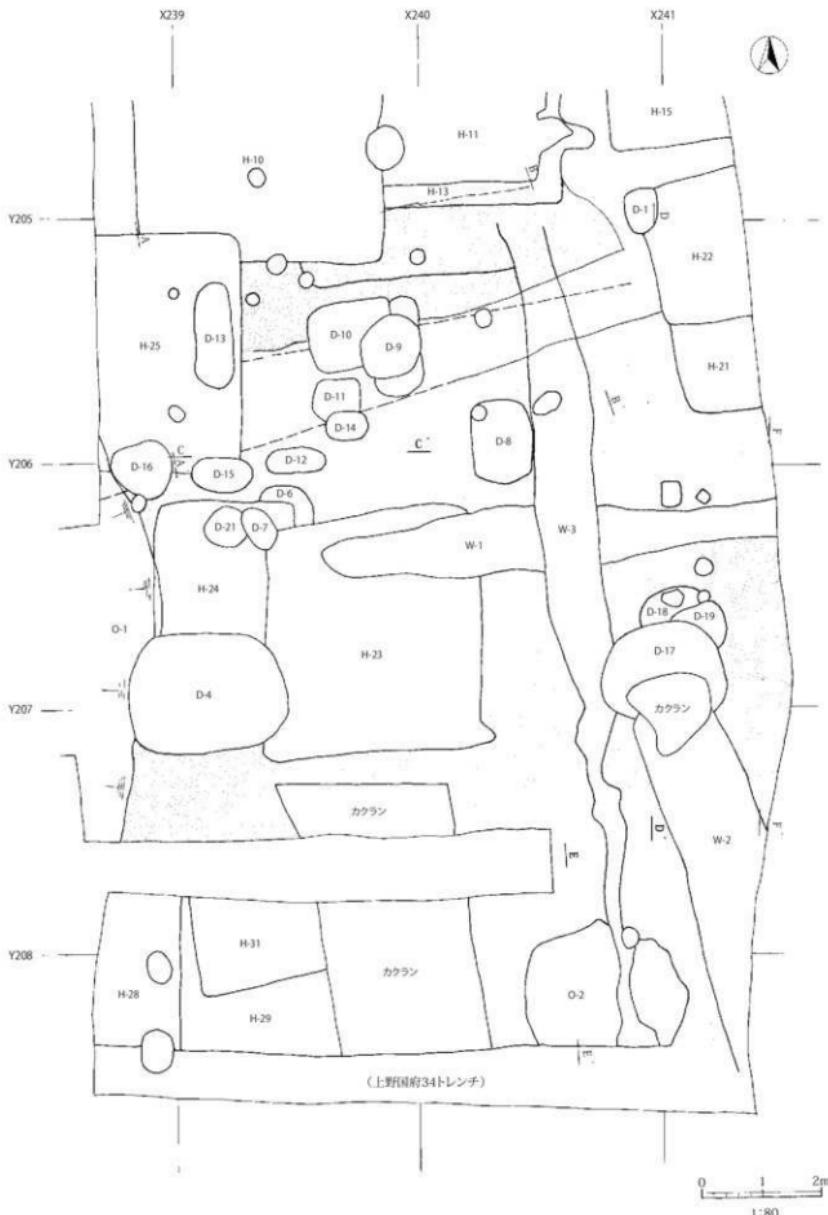


Fig.14 掘込地業分布図

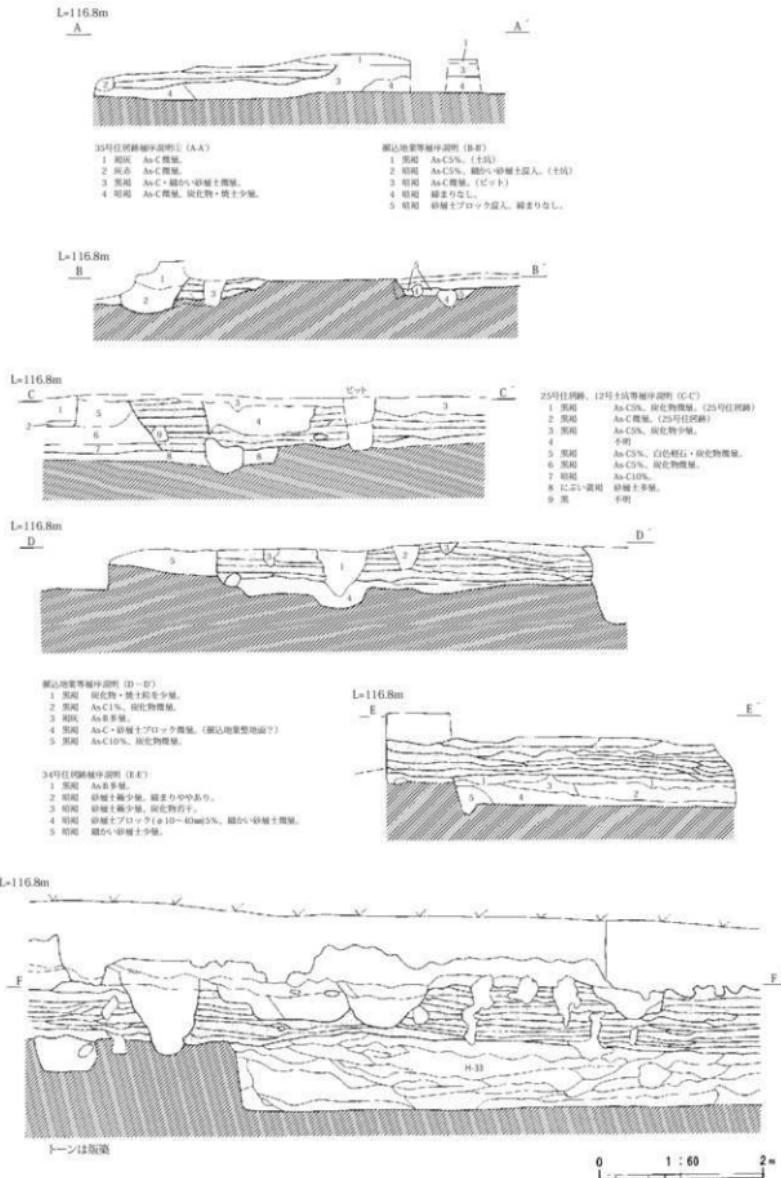
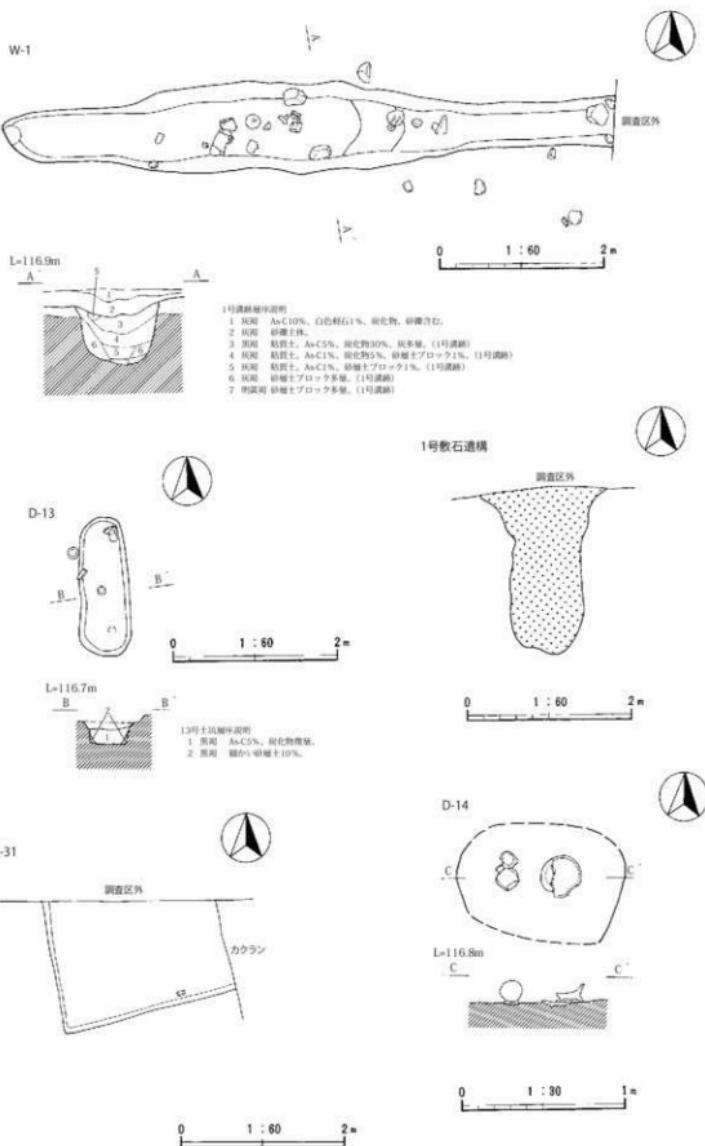


Fig.15 挖込地業に係る土層堆積図



Fig.16 挖込地業下位の住居跡



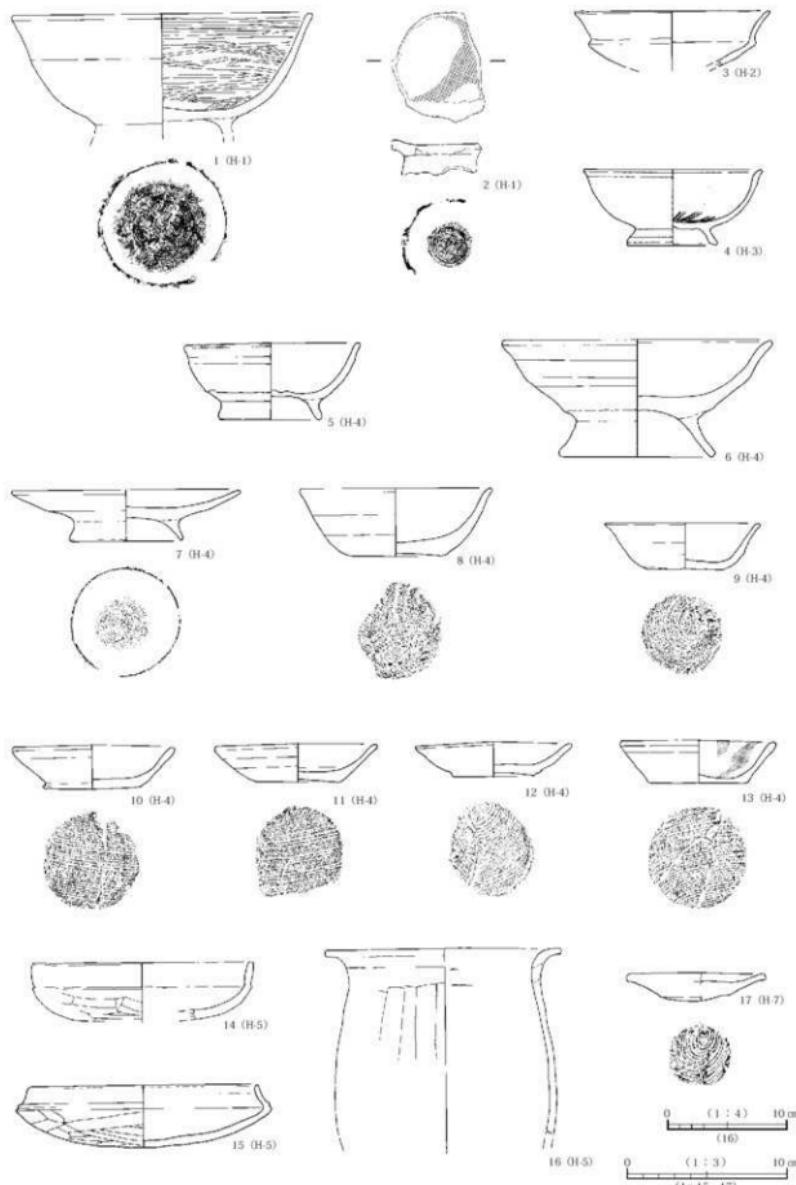


Fig.18 元總社舊海遺跡群(99)出土遺物(H-1~H-7)

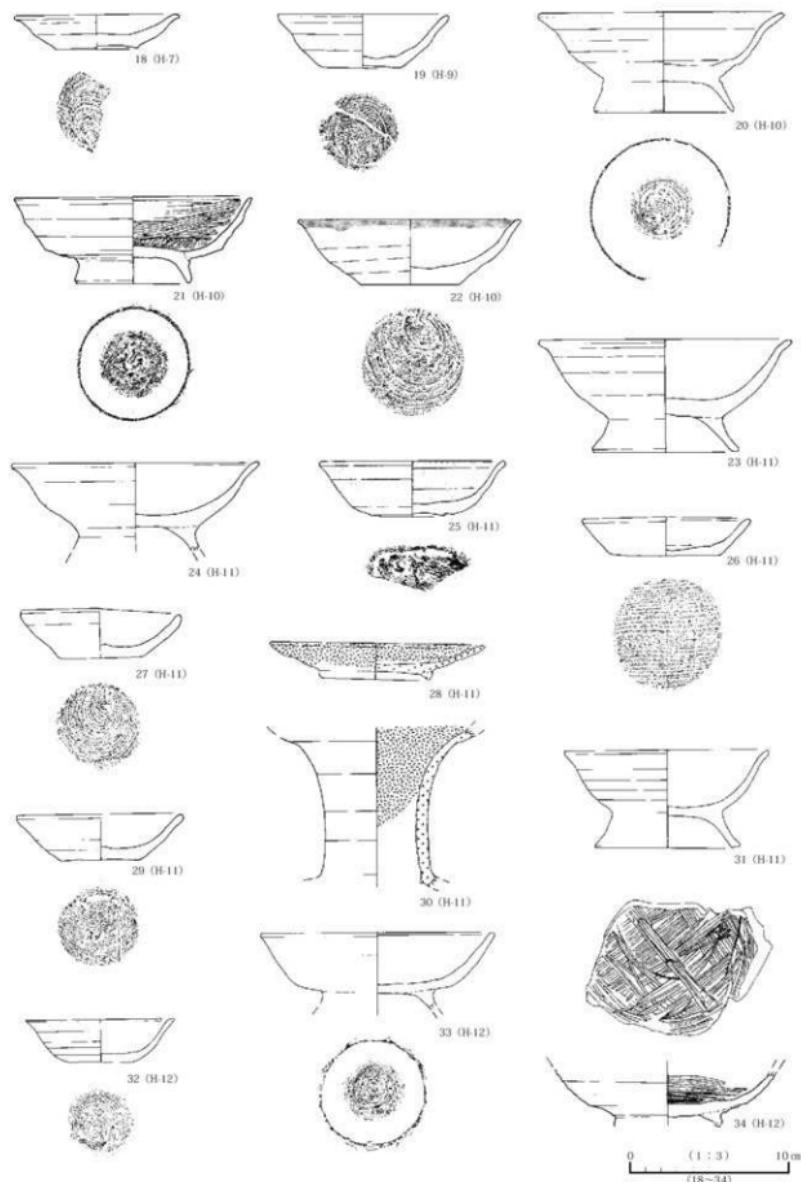


Fig.19 元総社舊海遺跡群（99）出土遺物（H-7～H-12）

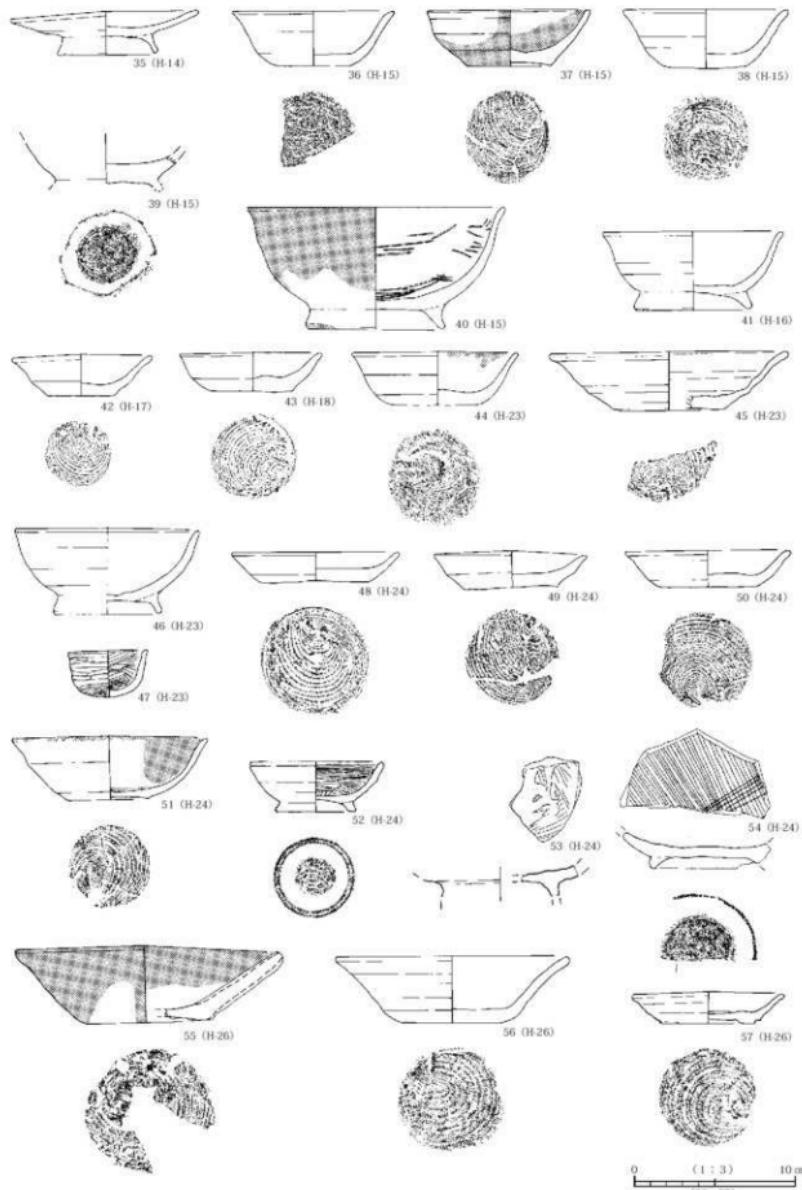


Fig.20 元総社舊海遺跡群(99)出土遺物(H-14~H-26)

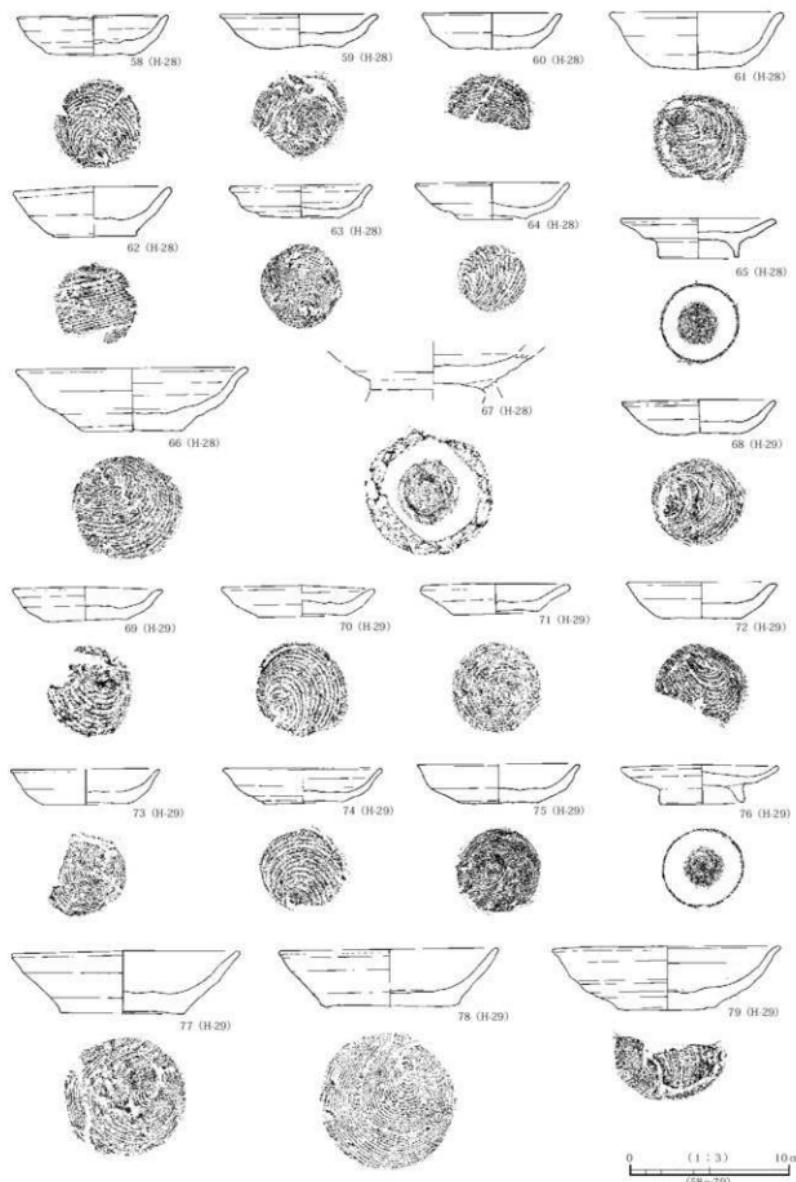


Fig.21 元總社苔海遺跡群(99)出土遺物(H-28、29)

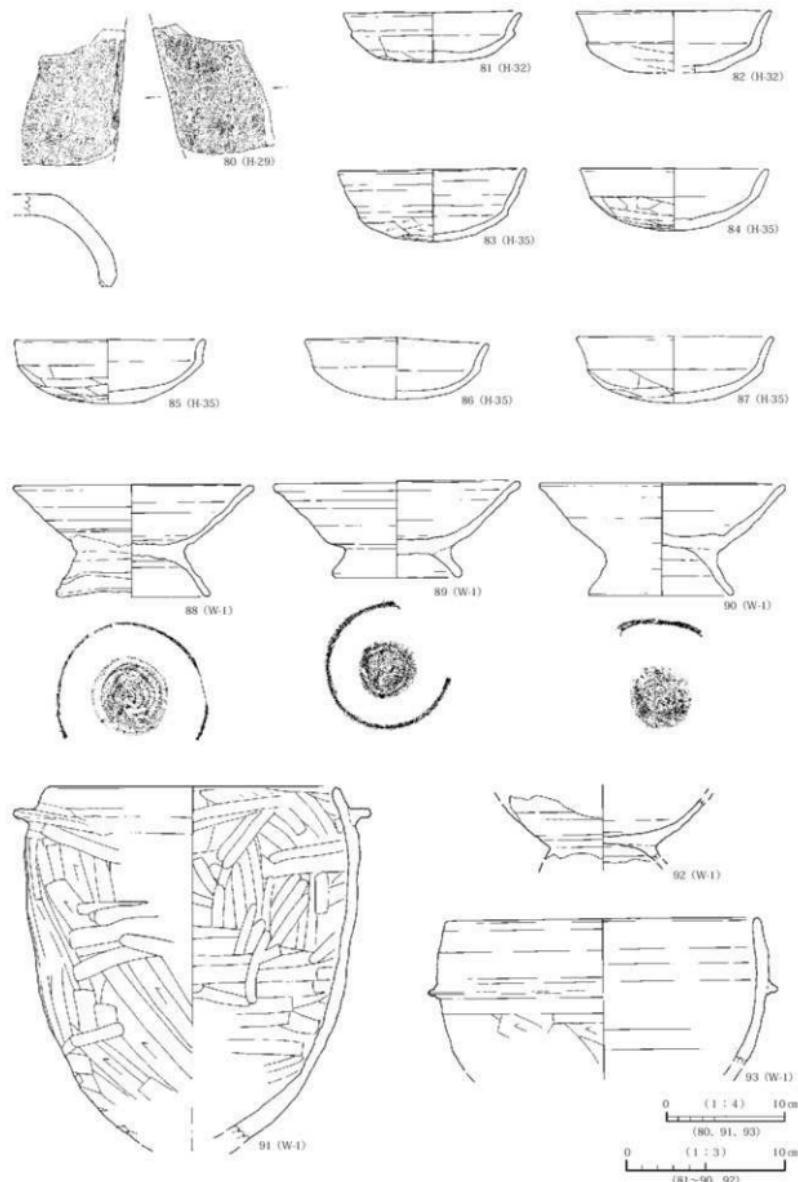


Fig.22 元總社苔海遺跡群(99)出土遺物(H-29、32、35、W-1)

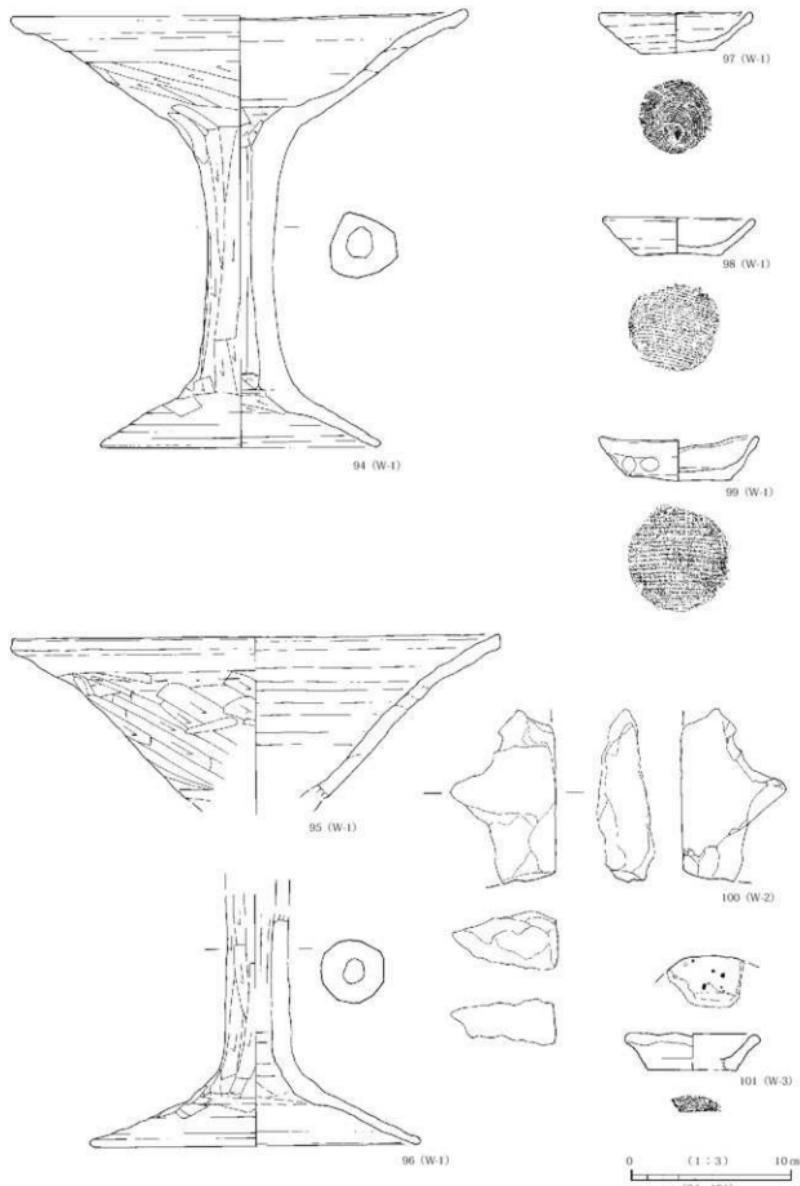


Fig.23 元総社首海遺跡群(99)出土遺物(W-1~W-3)

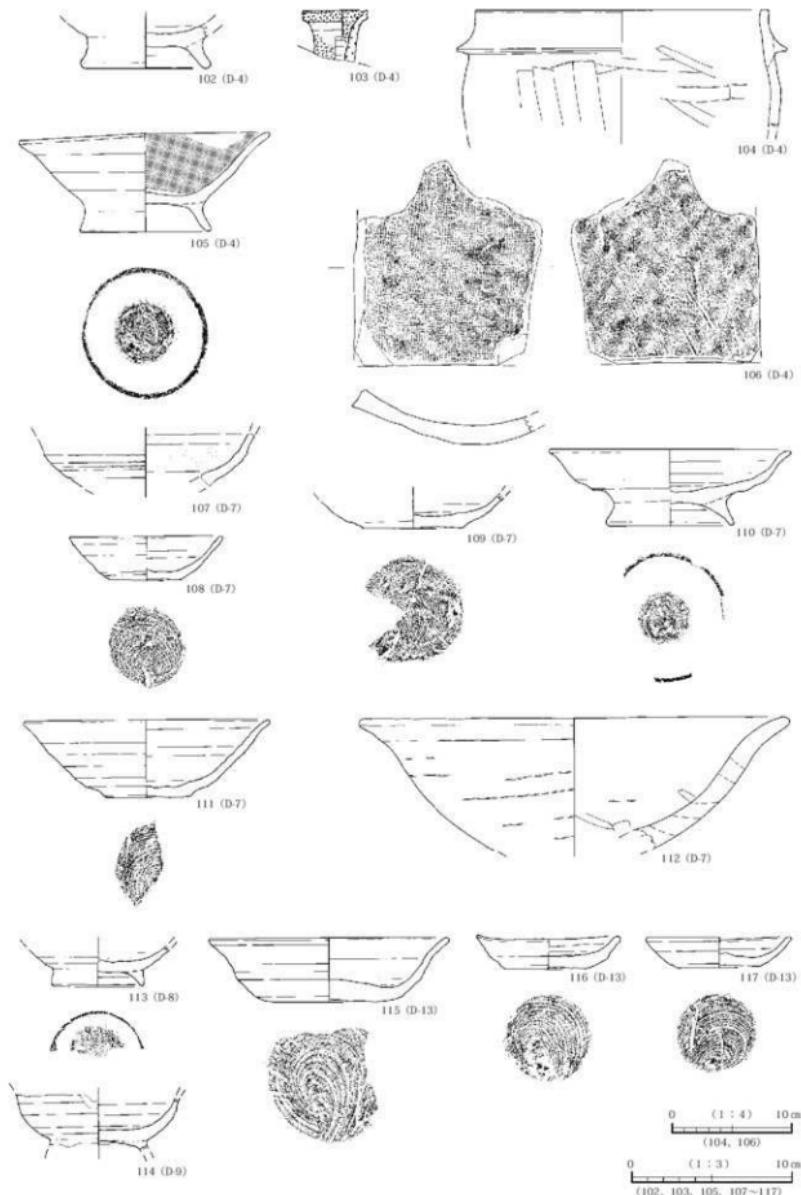


Fig.24 元総社苔海遺跡群(99) 土坑出土遺物(102~103, 105, 107~117)

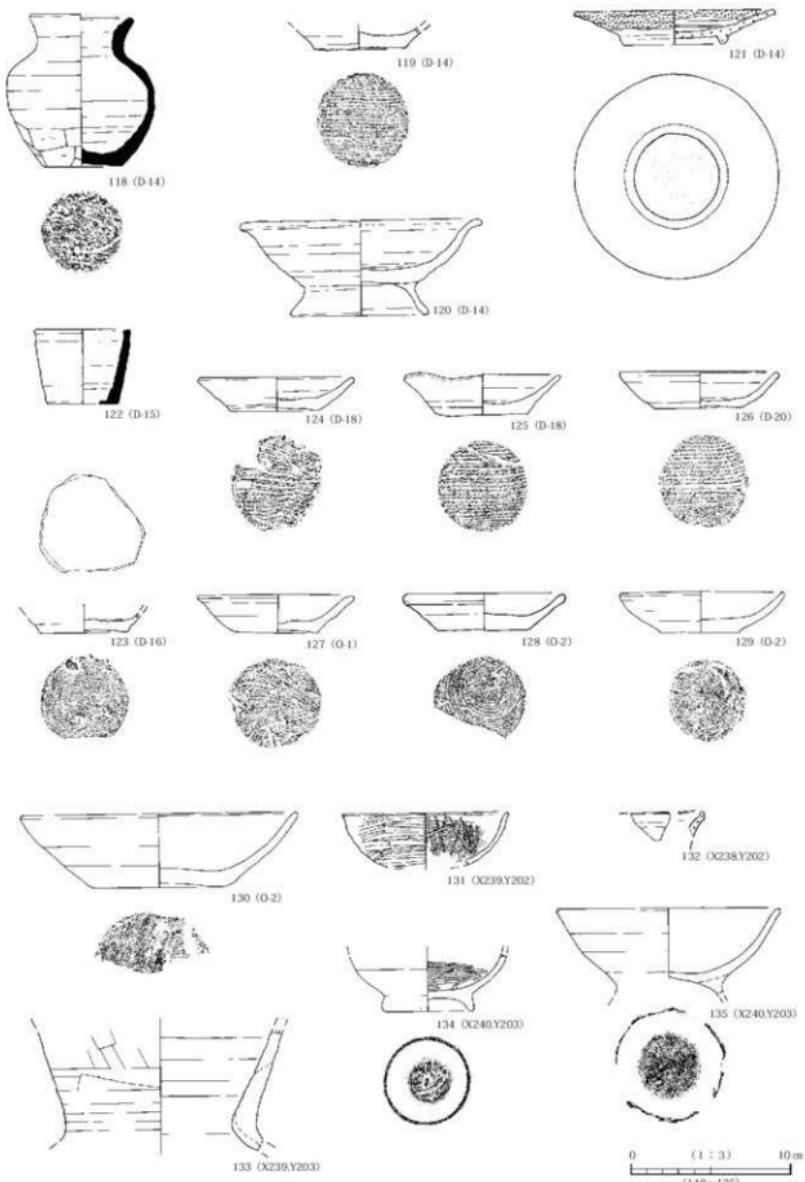


Fig.25 元総社舊海遺跡群（99）土坑、グリッド出土遺物

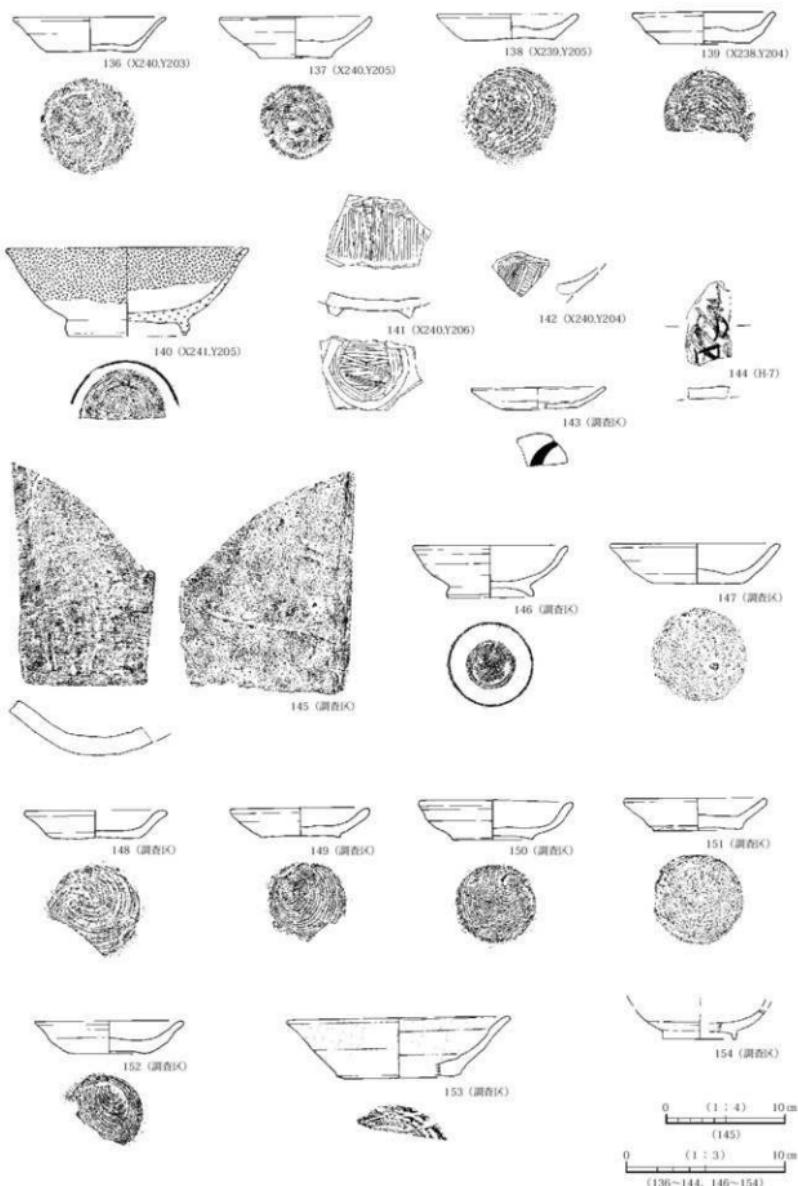


Fig.26 元総社苔海遺跡群(99) グリッド、調査区出土遺物

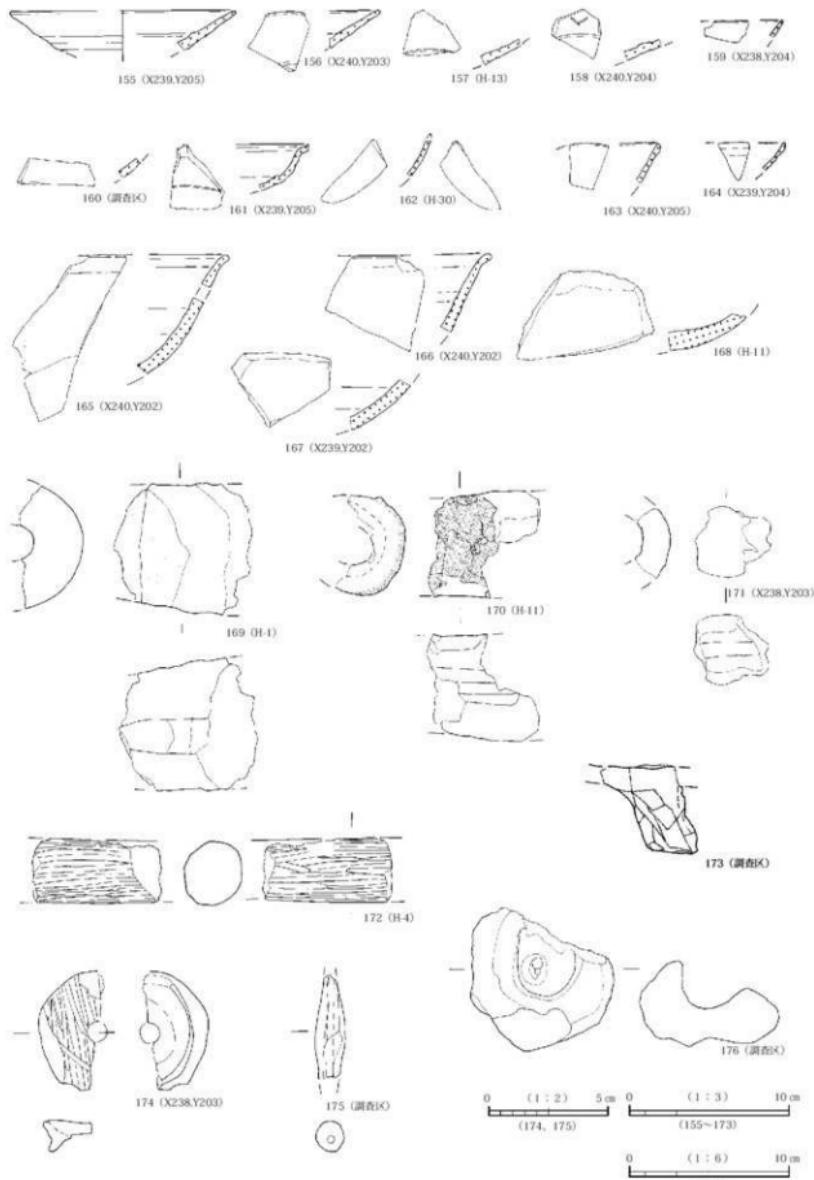


Fig.27 元総社蒼海遺跡群(99) 緑釉、白磁、灰釉、土製品、石製品

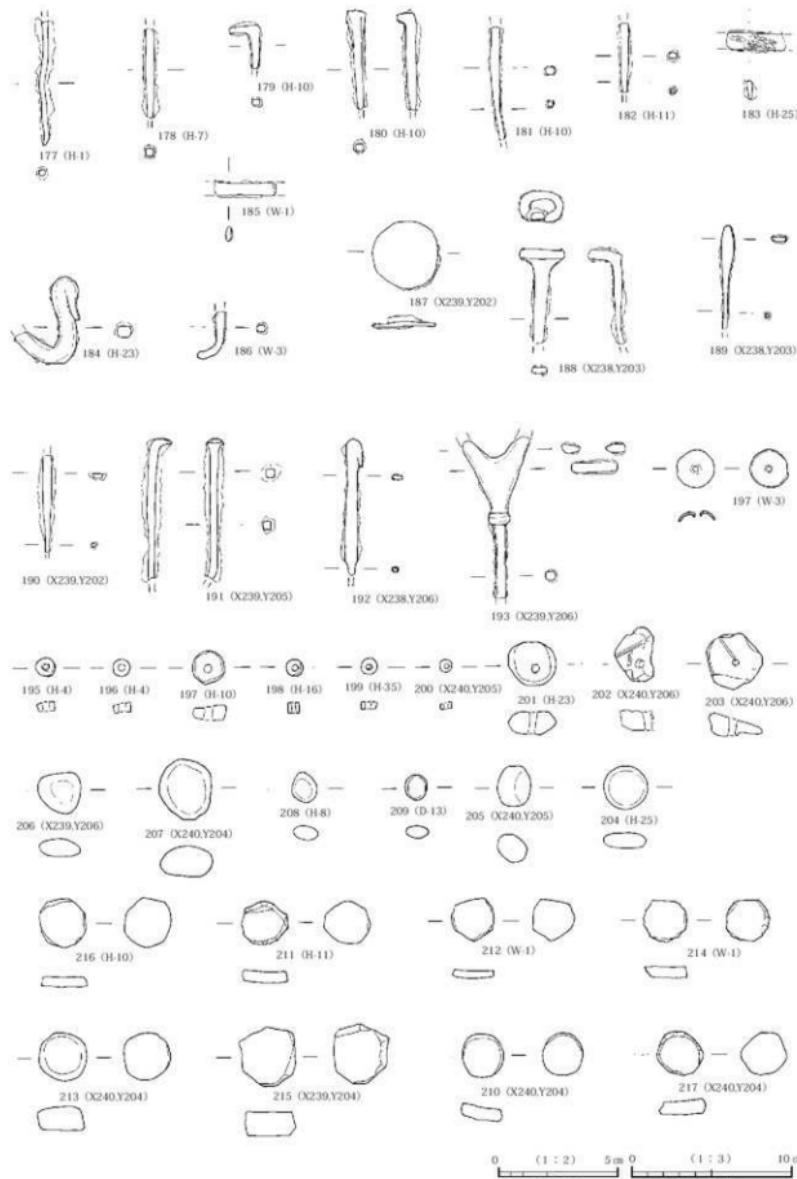


Fig.28 元総社遺跡群(99) 鉄製品、土製品、石製品

VI まとめ

(1) 検出された遺構について

元総社蒼海遺跡群（99）では、遺構が非常に濃密な状態で分布していた。その状況は、表土掘削終了後に遺構確認を行ったところ、調査区内すべてが遺構の覆土に見えた程である。検出された遺構を時期で大別すると、年代的に古い順から①6世紀代の竪穴住居跡。②掘込地業をもつ建物跡。③10・11世紀代を中心とした竪穴住居跡および溝跡。④中世のピット（掘立柱建物の柱穴か）となる。

i. 古墳時代後期の集落について

この時期に該当する住居跡については、蒼海遺跡群（99）以外でも、隣接する調査区でも検出されている。また、それら住居跡は牛池川右岸を川に沿って分布していることから、蒼海遺跡群（99）で検出された当該時期の住居跡も、そうした分布一集落一を構成するものであると考えられる。

ii. 平安時代後期の集落について

③の10・11世紀代を中心とした住居跡と溝跡についてであるが、住居跡については、その重複状態により、各住居跡の範囲が明確に確認できないほか、その下位の掘込地業の確認が困難なほどであった。これら住居跡で特徴的なのは、履土から縄袖陶器や白磁の破片が多く出土している点である。同様の傾向は、本調査区の東に位置する元総社明神遺跡IXZトレンチでも白磁の破片が比較的多く出土しているほか、本調査区に連続する推定上野国府33・34トレンチにおいても縄袖陶器や白磁の破片が出土している。また、本調査区の1号溝跡からは白色で土師質の高环が出土した（巻頭写真参照）が、この高环は胎土が粗く、环部の底面に穴を穿ち、その穴は脚部に通じるという特徴的な形態をしている。この土器は本調査区1号溝跡のほかに推定上野国府33トレンチにまたがる1号落ち込みでも破片で出土している。また、元総社小学校で保管されてきた同校出土と考えられる資料の中にも同様の高环が含まれている。現在のところ、この高环は本調査区周辺から元総社小学校までの牛池川に沿った範囲でしか出土が確認されていない珍しい土器で、出土した遺構などから11世紀代に属するものと考えられる。その他に碁石と推定される小砾や土器を転用した円盤形の土製品も出土しており、前述の陶器や高环も含めて考えると宮鍋神社から元総社小学校にかけての範囲は、蒼海地区の同時期の他の住居跡では出土しない遺物が多く出土する傾向がある。

また、10号住居跡は竈が確認できなかったほか、通常の住居跡よりも南北方向に長大で、床面に焼土や炭の分布が見られた。同様の住居が推定上野国府28トレンチや、同13トレンチでも検出されている。こうした住居跡はその規模や構造から一般的な住居よりも工房的な性格が考えられる。

(2) 掘込地業をもつ建物跡について

本調査区では掘込地業が検出された。検出された掘込地業は、検出状態から布地業と総地業の両方が存在したと考えられる。両者を位置関係でみてみると、布地業から南東方向へ約4m移動した位置で総地業が認められた。

両掘込地業の検出位置からまず問題となるのは、同一の建物の掘込地業なのか、それとも別の建物の掘込地業であるのかという点である。

総地業は寺院や郡家の正倉などでは一般的ではあるが、蒼海遺跡群では初めての検出事例であり、布地業については平成26年度に、蒼海遺跡群（99）から北西へ約70mの地点で布地業が枠形に囲うような形状で検出された建物跡が検出されている（28トレンチ。前橋市教育委員会 2016）。蒼海遺跡群（99）では一見した印象では布地業と総地業が同一の建物の掘込地業という印象も受けれるが、上野国府28トレンチの事例を考慮すれば、布地業と総地業は別の建物と考えることもできる。

ここで、両掘込地業のプランを確認したいが、布地業の主軸については、その北辺部分が東へ進むにつれて細

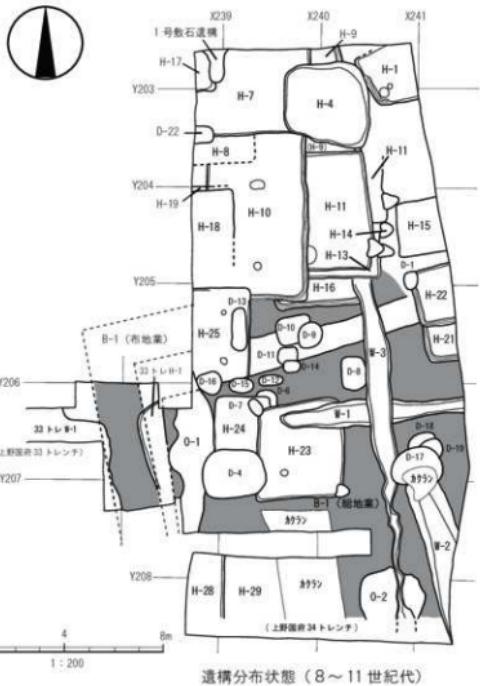
くなるという検出状態から割り出すのは難しいが、全体のバランスを考慮するとN-11°-Wと考えられる。総地業についても、確認されている西端と北端から推測して、主軸はN-9°-Wと考えられ、双方とも近似しているが、若干異なる。同一の建物であれば主軸は同一となるであろう。また、総地業は調査区の東端まで到達し、さらに調査区外へ広がっていることが推定される。布地業は調査区東端付近の15号住居跡と20号・21号・22号住居跡の間で掘込地業が確認できなかった状況から、そこまでは続いていなかったと受けとめられる。しかし、掘込地業の掘り形の終息が明瞭に確認できなかった点もさることながら、そこで掘込地業が南へ曲がることも確認できなかった。20号・21号・22号住居跡は10世紀以後の住居と推定され掘込地業よりも新しいことから、場合によってはこれら住居跡により掘込地業は破壊されてしまったと考えるべきなのであろうか。

総地業は蒼海遺跡群（99）の南に隣接する上野国府34トレンチの調査成果から、34トレンチ以南まで掘込地業が続いている可能性が高い。

なお、布地業・総地業とともに掘込地業の上部は10世紀以後の住居跡や溝により、当時の地表面（版塗の最上位面）を確認することができなかった。よって、この建物跡の礎石の据え付けの痕跡や根石等は検出できなかった。この建物跡が掘込地業をもつ状況から、礎石をもつことは想像に難しくない。建物の廃絶後に、この場所に多くの住居が建てられたことから、その際に礎石や根石は除去されてしまったのであろうか。なお、この件に関して一つの可能性を提示するならば、蒼海遺跡群（99）の東南約60mに位置する元総社蒼海遺跡群（98）の2号井戸跡から、扁平な面をもつ大きさ約1mの石が出土している（前橋市教育委員会 2015b）。もしかしたら、こうした大きな石が蒼海遺跡群（99）で検出された建物において礎石として使用されていた可能性も考えておきたい。

（3）宮鍋神社付近の様相について

宮鍋神社付近は、上野国府等範囲内容確認調査の実施に際して、その南に広がる平坦地を国府推定地C案とした経緯がある。また、宮鍋神社の「みやなべ」の名称も国府に因んだものだと研究的には以前から言われている。平成24年度から、区画整理事業の進捗にともない、この付近において発掘調査が進んだことにより、その歴史的な様相が明らかになってきた。



遺構分布状態（8～11世紀代）

蒼海遺跡群（99）の付近では、北西へ約70mの地点の上野国府28トレンチでは主軸が西へ13度傾く掘込地業（布地業）をもつ建物跡、南西へ約70mの地点の上野国府38トレンチには主軸が西へ5度傾く掘立柱建物跡、さらに南西へ約120mの地点の蒼海遺跡群（95）では、主軸が西へ19度傾く1号掘立柱建物跡と、同じく13度傾くそれよりも新しい2号掘立柱建物跡が検出されている。なお、蒼海遺跡群（95）では上幅4mの主軸が西へ13度傾くほぼ東西方向の区画溝と、上幅4mの主軸が西へ4度傾く南北方向の区画溝も検出されている。区画溝について言及すると、蒼海遺跡群（99）から西へ約150mの地点には主軸が西へ10度傾く南北方向の区画溝が走っている。

このように付近で検出された建物跡や区画溝を見てみると、①主軸方向が西へ13度前後傾く一群。②主軸方向が正方位に近い一群に大別できる。元総社小学校の校庭で検出された掘立柱建物や区画溝は正方位を意識しており、現時点での傾向としては、正方位を意識した建物や区画溝は現在の県道足門・前橋線以南を中心として分布する傾向がある。主軸が西へ13度前後傾く一群は、正方位を意識したものよりも北の宮鍋神社の南付近を中心として分布している。

蒼海遺跡群（99）の建物跡については、検出されたその位置や、布地業の主軸が西へ11度、総地業の主軸が西へ9度傾いていることから主軸方向が西へ13度前後傾く一群に属するものと考えたい。

さらに言及すると、蒼海遺跡群（95）、上野国府38トレンチ、同28トレンチとともに掘込地業や掘立柱建物および区画溝よりも古い時期である6世紀から7世紀にかけては住居跡が分布するが、掘込地業と掘立柱建物と区画溝が存在したと推定される時期には住居がほぼ分布しない。10世紀になると住居は非常に密に分布する傾向は共通する。そうした点からも、この付近の集落が、6世紀代に営まれ始めるが一度途絶え、10世紀代になると再度営まれることが考えられ、一度住居が途絶える8・9世紀代に掘込地業をもつ建物や掘立柱建物を擁する施設が存在していたと考えられる。なお、10世紀以後に営まれた集落についても、出土品の特殊性からその性格には注意が必要であろう。

（4）まとめ

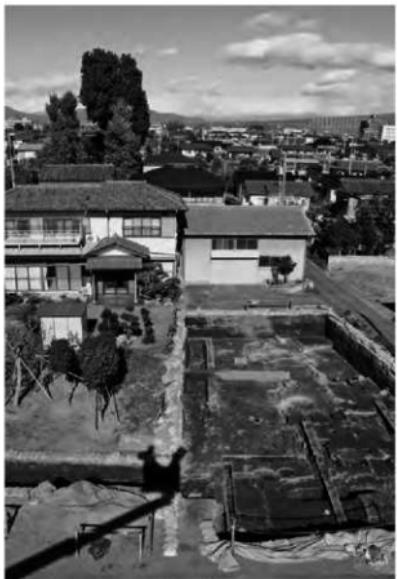
上記のような掘込地業や掘立柱建物および区画溝の主軸の角度の差がどのような意味を持つのかについては、現時点では明らかにできない。しかし、宮鍋神社の南付近において、主軸と同じくする建物や区画溝が存在する点や、建物が元総社地区では他に検出されていない掘込地業をもつ点など、共通した特徴をもつ建物跡や区画溝が一定の場所から集中するかたちで検出されているという事実は看過できない。付近の調査事例を増やしながら、その施設の性格の検討や範囲の確定を進みたい。

また、蒼海遺跡群（99）で検出された建物跡についても、掘込地業自体の範囲など、今回の調査では明確にできなかった事項も多く存在する。今後の調査で建物跡の範囲確認やその性格についてもあわせて検討していただきたい。

【主要参考文献】

- 伊勢崎市教育委員会 2016 『発掘された古代の役所～最新の発掘成果からみた上野・北武蔵の律令社会～』
合同遺跡報告会資料集
- 文化庁文化財部記念物課監修 2010 『発掘調査のてびき 集落遺跡発掘編』同成社
- 文化庁文化財部記念物課監修 2013 『発掘調査のてびき 各種遺跡調査編』同成社
- 前橋市教育委員会 2000 『元総社宅地遺跡・上野郡分尼寺守城確認調査Ⅱ』
- 前橋市教育委員会 2013 『推定上野国府～平成24年度調査報告～』
- 前橋市教育委員会 2015a 『推定上野国府～平成25年度調査報告～』
- 前橋市教育委員会 2015b 『元総社蒼海遺跡群（85）・（88）～（90）・（96）～（98）』
- 前橋市教育委員会 2015c 『元総社蒼海遺跡群（91）・元総社蒼海遺跡群（95）・元総社蒼海遺跡群（102）』
- 前橋市教育委員会 2016a 『推定上野国府～平成26年度調査報告～』
- 前橋市教育委員会 2016b 『元総社蒼海遺跡群（65）』
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1991 『元総社明神遺跡IX』

写 真 図 版



宮鍋神社（左上）と蒼海遺跡群（99）調査区（南から）



蒼海遺跡群（99）調査区全景（拡張前）（南西から）



蒼海遺跡群（99）調査区（拡張前）と国府34トレ（南から）



調査区拡張部（道路部分）調査状況（南から）



中世面での遺構確認状態（南から）



1 1号敷石遺構全景（南から）



2 4号住居跡土堆積状態（東から）



3 12・13・14号住居跡全景（西から）



4 11号住居跡全景（西から）



5 10号住居跡全景（南から）



6 16号住居跡全景（北から）



7 灰軸陶器出土状態（北から）



8 11号住居跡貯藏穴遺物出土状態（南から）



1 14号土坑遺物出土状態（南から）



3 1号溝跡遺物出土状態（東から）



4 挖込地業検出状態（北から）



1 挖込地業検出状態（西から）



2 総地業と布地業検出状態（東から）



3 挖込地業と1号溝跡（東から）



4 布地業の土層堆積状態（西から）



5 布地業の土層堆積状態（東から）



1 布地業の土層堆積状態（東から）



2 総地業の土層堆積状態（北から）



3 総地業の土層堆積状態（西から）



4 総地業の土層堆積状態（西から）



5 33号住居跡全景（北から）



6 5号住居跡全景（北から）



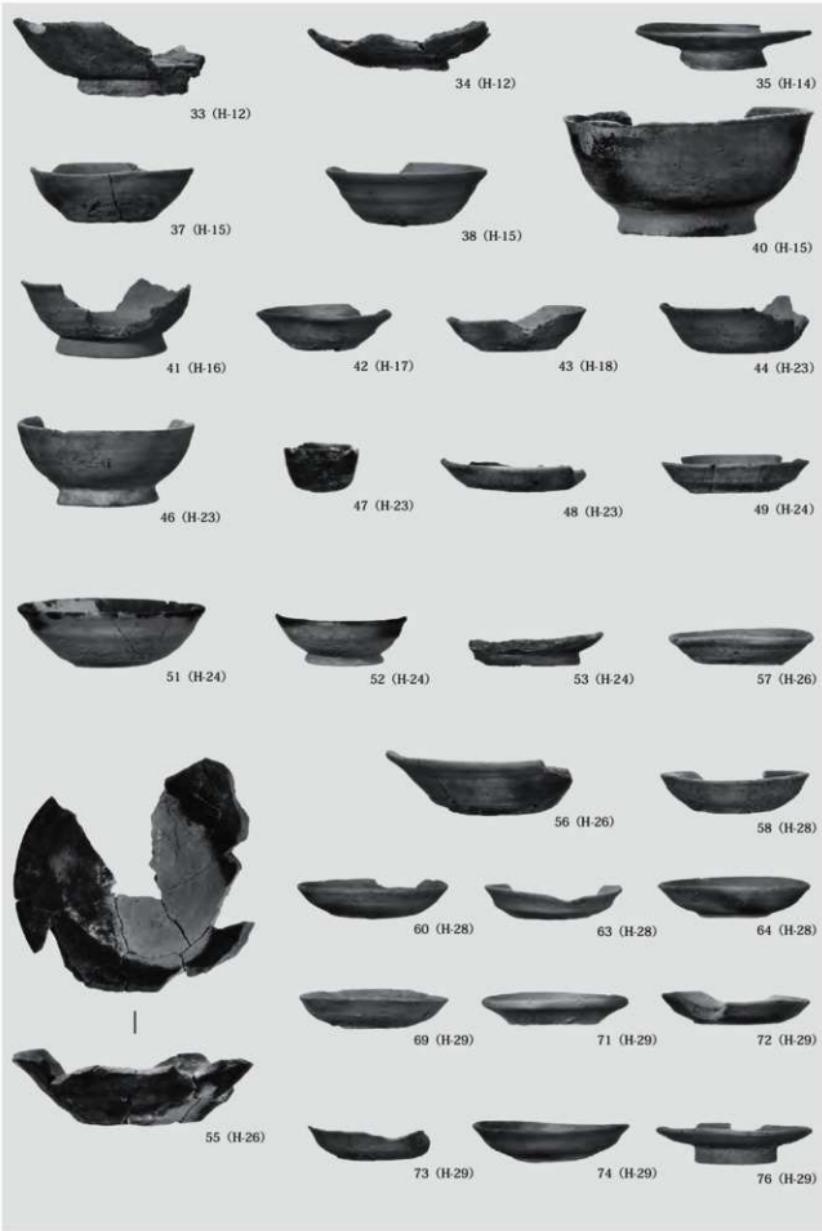
7 23号住居跡全景（北から）

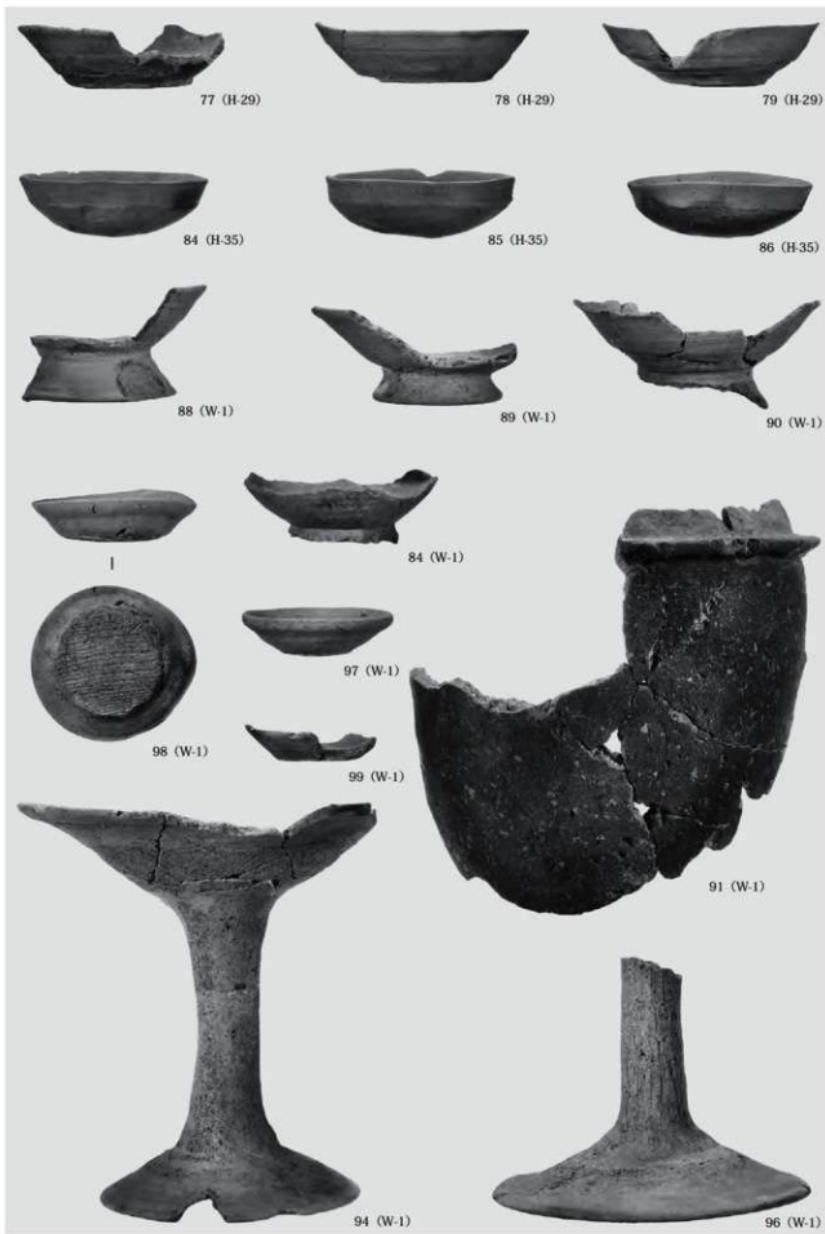


8 35号住居跡全景（西から）

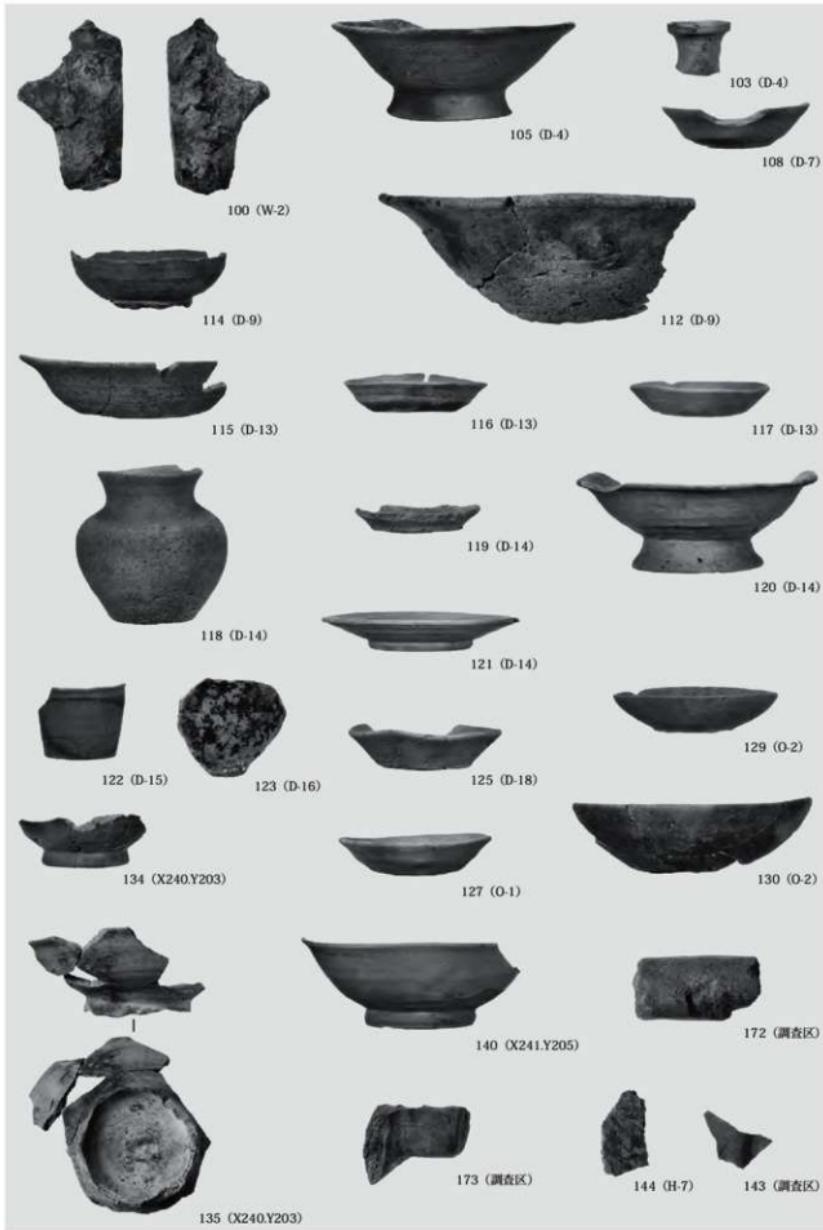


元總社舊跡遺跡群 (99) 出土遺物①

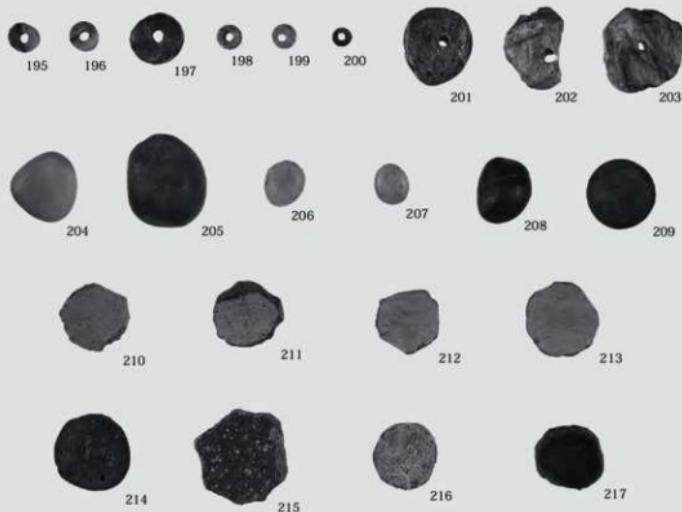




元總社舊海遺跡群（99） 出土遺物③



元總社舊跡遺跡群 (99) 出土遺物④



抄 錄

フリガナ	モトソウジャオウミイセキダン (99)
書名	元総社蒼海遺跡群 (99)
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
卷次	
シリーズ名	—
シリーズ番号	—
編著者名	福田 貴之・並木 史一・阿久澤 智和
編集機関	前橋市教育委員会
編集機関所在地	〒371-0853 群馬県前橋市総社町三丁目11番地4
発行年月日	20160325

フリガナ	フリガナ	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
モトソウジャオウミイセキダン 元総社蒼海遺跡群 (99)	前橋市元総社町 2107-1	10201	26A195	36°38'96"	139°03'60"	20150922 ～ 20151224	248m ²	前橋都市計画事業 元総社蒼海土地区 画整理事業

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群 (99)	集落	古墳時代	住居跡6	土師器、須恵器	牛池川右岸に立地する古墳時代の集落の一部を検出。
	官衙、集落	奈良、平安時代	住居跡27、建物跡 (布地業・総地業)、溝跡2、道路状遺構1、井戸跡2、土坑21、ピット、落ち込み2	土師器、須恵器、土師質土器、黒色土器、灰釉陶器、綠釉陶器、白磁、石製品・土製品(繕石等)	8～9世紀頃と推定される掘込地業(布地業・総地業)をもつ建物跡を検出。 建物が廃絶した後の10世紀代以後に多量の住居が造られるほか、土師質の高環形土器が出土した小形の溝が掘削される。
	城館	中世	ピット群、溝跡1	石製品、在地産土器類	掘立柱建物の柱穴の可能性のあるピットや、蒼海城との関連が推定される溝跡を検出。

元総社蒼海遺跡群(99)

前橋都市計画事業元総社蒼海上地区調査事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2016年3月22日 印刷

2016年3月25日 発行

編集・発行／前橋市教育委員会文化財保護課
印刷／朝日印刷工業株式会社
